

校旗



校章



唐津西高校



唐津高校



唐津高等女学校

校歌

唐津西高等学校校歌

作詞 三根 貞夫
作曲 坂本三二夫

- 一、梅子産の里の 歴史の輝
ひかり面影感じて、
望み新た 動しのほ
秋意はれはく 秋清湯
あめ魂の 揺籃よ
燃ゆる希望よ 字じ會よ
誇れよ西高 我等の西高
- 二、夢路に逢ふ 潮騒の
西の決闘の 雲暮み
清に聴ふ 群像の
紡ぐる風津に ぬの立つ
あめ赤銅の 健康よ
たぎる力よ 字じ會よ
縦えよ西高 我等の西高
- 三、青春をけく 浮城の
雲も湛々 朝ぼらけ
見測おどる 大海と
不屈の努力 杖よなり
あめ青春の 感激や
高き理想よ 字じ會よ
堂あれ西高 我等の西高





小土子像 (伊豆川架通記念)



歴代校長

唐津高等女学校～唐津二高



第1代
黒土 四郎
昭和2年9月～



第2代
中野 才次
大正9年10月～



第3代
秀島寅治郎
大正8年12月～



第4代
丸山 重治
昭和初年4月～



第5代
平川 信晴
昭和19年4月～



第6代
夏秋 源治
昭和12年4月～



第7代
赤河 輝
昭和5年10月～



第8代
広羽 武雄
昭和3年2月～

唐津高等学校（総合高校）



第1代
市場直次郎
昭和16年4月～



第2代
内田 英夫
昭和17年4月～



第3代（唐津二高 継代）
山下 健一
昭和22年4月～



第4代
前田 勝郎
昭和29年4月～

唐津西高等学校（分離後）



第1代
川島 秀重
昭和16年4月～



第2代
嘉村 尚
昭和17年4月～



第3代
松雪 信三
昭和18年4月～



第4代
伊藤 保
昭和19年4月～



第5代
井手 徳夫
昭和5年4月～



第6代
西岡 二郎
昭和55年4月～



第7代
志津田一男
昭和52年4月～



第8代
川添 一
昭和59年4月～



第9代
藤井 歸一
平成2年4月～



第10代
坂本 秀雄
昭和62年6月～



第11代
多久島 勇
昭和62年4月～



第12代
江島 正昭
昭和69年4月～



第13代
木村 宏
平成13年4月～



第14代
堤 浩康
平成11年4月～



第15代
石井 俊治
平成8年4月～



第16代
西中田 勲
平成6年4月～



第17代
竹森 唯幸
平成27年4月～



第18代
山崎 俊介
平成19年4月～



唐津女学校

〔明治四十年〕



福音堂

大正2年大島小路（現横組倉庫敷地）に建設された洋風木造建築で、長期間郡民の各種会堂に使われて来た。唐津女学校当初は福音堂として使われた。

明治四十年

三月八日

四月十六日

四月十五日

五月三日

唐津女学校中二種ヲ設置シ認可ヲ得
町立唐津女学校ト稱ス。

佐賀縣視學丸山源治校長ニ任セラレ

四月二十日ヨリ唐津町境内ニ

於テ開校準備ノ事務ヲ開始ス。

唐津郡中々學法華堂（大島小路）ヲ

假校舍ニ充テ開校ス。當時入學ノ許

可セン生徒八第一學年二十三名第

二學年二十七名ニシテオラフ學級二

編制ス。（一）年（二）年（二）年（一）年（一）

統貫二編スル辦法擬定スヲ開始ス。



唐津高等女学校

【明治四十一年、昭和二十二年】



唐津高等女学校

明治40年、唐津市大石小邸に創立女学校として設立され、翌年4年制の高等女となり法支町に移転、やがて創立に改称、東紀高地区唯一の女子の教育機関だった。唐津西面の創身。写真は明治43年ごろ。

【明治四十一年】
二月十九日

本校八雲初等女学校を二種り設置シタル先宛新設ノ希望ハ高等女学校組織ニアルヲ以テ之ノ方變更ヲ議決シ従来の学校ハ明治四十一年三月三十一日閉校止シ翌二四年四月一日ヨリ町立唐津高等女学校トシテ設置ノ件本日認可ヲ得

四月七日

高等女学校ニ組織變更ノ結果第二學年二百名第三學年二百二名ノ編入學及第一學年二十七名ノ新入學ヲ許可シ之ヲ五學級ニ編制ス。但シ編入學試験ハ本縣監督官立會ノ上之ヲ行フ。(但シ第一學年第四年)

四月九日

新設校舎ノ一部工シタルニヨリ舊校舎ヨリ移轉ス。六〇〇・五番地ニ(原主町校地)

十一月十六日

改申請書ノ提出ヲ拜謝ス

十二月十五日

唐津町立唐津高等女学校ト名稱變更ノ件認可ヲ得



高村舎 (昭和11年)



(昭和11年)



唐津高等学校

【昭和二十三年、昭和三十年】



唐津西高等学校

〔昭和三十一年〜現在〕



文化祭 (昭和31年 卒業アルバムより)



吹奏部 (昭和31年 卒業アルバムより)



部活動 (昭和31年 卒業アルバムより)



茶会部 (昭和31年 卒業アルバムより)



大正初期の女学生
明治の服装が受け継がれ、数階のみが洋服である。



高女作品授業
服装が著しく変わった時代の正科授業として草履があった。
写真は太正中頃。



大正中頃の理科授業
これでも当時是最新設備。
写真は高津高専女学校、大正中頃のものである。

【大正五志】 三月二十七日 第七回卒業證書授与式ヲ舉行ス、卒業生七五名、副補科ヲ廢止ス。	四月 但シ第二學年以上ノ生徒ニシテ既修ノモノハ其ノ卒業期マデ教授ヲ繼續ス、 皇廷陛下ノ御氣影ヲ拝觀シ即日拜觀式ヲ舉行ス、 立太子禮當日ニ付拜觀式ヲ舉行ス、	十月二十六日 第八回卒業證書授与式ヲ舉行ス、卒業生七九名、 校地北側ニニヘルル官有地一反三畝八歩借用ノ件認可セラル、 屋内修築等ニ對シテ下屋増築竣工ニ付主科ノ整齊室及体育室ニ充テラ、	十月十三日 本校動議一〇年以上ニ達セル校長丸山實吉、教諭松代イウカ、監督犬其三郎ノ表彰式ヲ舉行シ校主書ヨリ記念品ヲ贈ル、	十一月十日 文部省視學委員前島貞子高等師範學校教授石野又五理科教學教授ヲ授與ス、 皇太子陛下御氣影ヲ拝觀ス、	十一月二十六日 第九回卒業證書授与式ヲ舉行、卒業生七一名、 教諭山田於英三郎、監督毛利鐵雄勲績十年以上ニ達シタルヲ以テ勲章表彰式ヲ舉行シ校主書ヨリ記念品ヲ贈ル、	【大正七志】 三月 六月二十五日
--	--	--	---	--	--	------------------------



運動会（『まつら』より 大正11年12月20日発行）



音楽会（『まつら』より 大正11年12月20日発行）



遊藝会（『まつら』より 大正11年12月20日発行）



演劇会（『まつら』より 大正11年12月20日発行）

（大正十一年）
十一月五日

本日ヨリ三日間創立十五周年記念式ヲ舉行ス。

第一日 記念式及祝賀會。

學藝公開覽覽會。

第二日 英亡難官故卒業生ノ追悼會。

音樂會。

學藝公開覽覽會。

第三日 大祝賀會。

第四年學生修了奉告長崎市二一泊ノ修學旅行ヲ行フ。宿泊旅行ハ全額ヲ學友トス。

（大正十二年）
二月十四日

大勳位功二種元帥陸軍大科仗見宮典受親王殿下御臨幸當日二付進拜式ヲ舉行ス。

四月二十日

前文部大臣早稲田大學名譽學長高田早苗博士來校講演アリ。

三月二十四日

第十四回卒業證書授與式ヲ舉行ス。卒業生九二名。

五月二十日

第一回公開講義ヲ本校二開演ス。演題ヲ生徒ノ制服ト定メ和服ト併用ノ件ヲ講テ行フ。

七月二日

關東地方大震災救助義演會ニテ送ル。四月十三日慰勞會二八九個ヲ送ル。十月二日生徒ノ教科書圖書等ヲ送ル。

八月五日

文部省特種學校第五高等學校教授高川五郎學藝教科書檢査ヲル。

十一月二十二日

津浦町油田キンヨリピアノノ（時價千五百圓）一巻賣却セラル。

（大正十三年）
一月十八日

津浦町油田キンヨリピアノノ（時價千五百圓）一巻賣却セラル。

創立十五周年
「佐賀縣教育五十年史」より

記念事業

創立十五周年記念式事行 大正十一年十一月五日より三日間に亘り左記日程より朝野の名士、生徒、父兄、卒業生を招待して盛大なる記念式典を舉行せり。

第一日 式典（十ヶ年以上勤続職員の表彰） 祝賀會

学藝品展覽會
第二日 道徳祭（物故せる職員生徒） 音樂會

学藝品展覽會
第三日 運動會



創立十五周年記念會



創立十五周年記念品類書
(唐津市立近代圖書館蔵)

祝「唐津高等女学校十五年記念」

横山

学界ニ曾ニ聞ニ致メト善教ヲ

文明智育兼ニ忠孝ヲ

星霜正ニ閱メ十五年

賢母良妻出ニ此ノ校ニ

この詩は「まつら会館」二階大広間の飾り床の中に掲げてある「板」の絵に付してある漢詩です。大正十年頃の作詩と思われるが、この詩に盛られた教育内容は唐津高女が戦後の新制高校になるまで一貫してとられてきたもので、当時の女学校の姿を端的に表現してあるものと思います。

詩意 この唐津高女は非常に立派な教育がなされている学校として、学界に早くもその名が知れわたっている。日暮月冬の文明を吸収し智的水準を高めていくことに併せて忠孝という教育勸諭の道徳面の教育も徹底的に施されている。創立以来すでに十五年の歳月を経過した。このような教育をうけて賢母良妻となる女性が続々とこの学校から巣立っていくのである。

（詩の解釈 野村秀美 昭 五七、六 一三二）

四月二十六日

編教官兼下御成婚會日ニ付奉祝式ヲ舉行ス。且記念奉事トシテ五記奉事ヲ行フ。

記念演ノ發演

記念文庫ノ發刊

職員生徒ノ記念野光

第十五回卒業證書授與式ヲ舉行ス。

卒業生八九名

放校方正義安國節會日ニ付通譯式ヲ舉行ス。

本日ヨリ向十日開演ニ付奉勸主

張第一回奉天大學開設セラル。

本日ヨリ一週間下高等女學校圖書式精品送別會合開演ス。

第一回全國體育選手ニ付談話講話、體育教師及人來者赴美、體操檢閱、大掃除等ヲ行フ。

本日より向一週間第一回全國勸業振興期間ニ付談話奉講、談話、唱歌等ヲ行フ。

四月十日

四月五日

四月十日

【二十五年】

一月三十日

二月十六日

三月二十四日

四月一日

五月十日

校演劇土四回縣立農島高等女學校長ニ任セラル。

本館知事兼警備三氏臨校生徒へ訓話セラル。

第十六回卒業證書授與式ヲ舉行ス。卒業生八九名。

任官保護守府官宜海軍大將仗見宮殿下御來遊ニ付職員生徒一同奉迎ス。

南庭下御成婚會二五年當日ニ付奉

「佐賀縣教育五十年史」より

宿泊修学旅行

従来生徒の宿泊旅行は絶対に行はざりしも時勢の遷運に伴ひ旅行擴張の必要を認め大正十一年度に於て初めて一泊の修学旅行を試み爾後毎年之を行ふこととなり。



佐津高津女学校

明治40年、創立佐津女学校として開校。自庁舎で完結。同41年田代町に移転。大正9年改定佐津高津女学校となった。昭和23年佐津第二高等学校となり、昭和31年佐津西高等学校となり、新本校舎建設。昭和36年新本校舎は独立分離した。昭和52年町田地区に移転。写真は昭和初期。

校舎の新築

縣管修葺と共に起工新築中なりし講堂及修法室は大正十三年二月に至り全く竣工して校舎の完備成れり。

制服の變遷 帽裝は凡て華美を避け質素を旨とし創立當時は編服袴に類素袴を以て制服と定めしが明治四十一年四月高等女學校に組織變更と共に白綴一本を繞せる袴を着用せしむることに改定し、爾來十有五年之を制服と定めたるも時勢の遷運は制服として洋服着用を要求するに至りしかば大正十二年更に之が改定を行ひ和洋併用を許可し任意着用せしむることとせり。

東宮殿下御成婚奉祝記念事業

記念園設置 大正十三年一月二十六日御成婚奉祝當日起工し毎日放課後約一時間完全職員生徒作業し同年三月二十一日竣工す。

記念文庫設置 皇室に關する記事及生徒自習用圖書を購入し經費は創立十五周年記念事業の剩餘金と生徒贈金とを以て之に充て爾後毎年繼續事業とす

記念貯金 思想養成の爲職員生徒各百分に應じて措置郵便貯金をなさしむ。

社會教育

本校又は地方小學校に於て左記公開講座を開設す
其の効果著しきを認む。
生活講習 子供園員講習 測空講習 女子講習
育児講習 其他

六月十九日

同日

五月二十五日

十月十二日

十月三十一日

十一月十七日

十二月七日

十二月十五日

二月六日

二月六日

二月六日

二月六日

二月六日

二月六日

二月六日

二月六日

二月六日

祝ノ為料理式ヲ舉行ス。

徳島地方大震火災救済義捐金ヲ送ル(職員生徒等協賛)

第一回各學級學力比較試験ヲ行フ(新學科)

別科次者共集まり送ル(職員生徒等協賛)

初メテ第四學年招生引率五割地方へ

第一回佐賀縣體育週間(二村本日ヨリ)



建築中の経緯教室



本校玄関



高女生の遠泳

西の浜での水泳訓練の仕上げは、浜より約500mの長島までの片道の遠泳で、大半の者が参加し完泳した。



昭和初期の水泳訓練

徳津島は西の浜海岸沿いで、水泳訓練はプールでなく海浜で行われた。

八月十四日

新任知事大島純竹郎巡視ノ為臨時

八月

新設理科教室ヲ平部教室ニ轉移

八月三十一日

校長中野才次侯爵退職

八月五日

前校長松浦次校長藤原敬儀ヲ命ゼ

八月十日

内親王殿下御臨園(午前四時四二

八月十三日

分)アラセラルレルニ付奉祝ノ為通

十二月二十五日

大正文会第一周年祭ツニキ通拜式

二月十四日

子行仁親訪ヲナス

(昭和三年)

三月八日

校長兼土四郎神楽川鶴立平塚高等

三月十二日

文学校長兼神楽川鶴立平塚高等女

三月十三日

学校教師二轉シ、新男塾立松崎高等

三月十八日

女学校長兼若武徳本校校長二轉セ

三月二十日

ラル

三月二十七日

久富松子内親王御遊ハサレタル

八月

ニ付談話ノ後通拜式ヲ行フ

八月二十六日

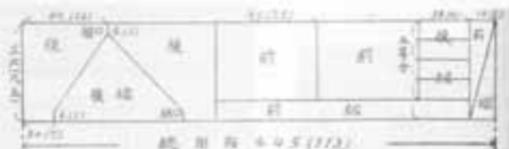
第十九回卒業證書授与式舉行知事

八月二十八日

代社各共事課長等平太郎臨政工、

卒業生九四名、
新任知事兼校長、
新任知事兼校長、
秋父宛陛下御成婚奉賀運動會開催

二 裁り方



- ◎備考 (1) 記入寸法の単位……釐(寸)としました。
 (2) もんべ丈は着用者の体格(身長)及好みに依つて寸法を断然し定める事です。
 (3) 肥つた人又は細腰(胴深くなる)を好む人は前布で前裾をかかぬ事。
 (4) 裾は別布にてもよろしいです。
 (5) 本裁であれば両身頃と背で出来ませう。

三 縫ひ方

(1) 前裾合せ

19. (五) のところを左右縫ひ合せて縫ひ代は隠れて隠れます。

(2) 前・後・の縫ひ合せ

後裾の真直ぐな方の中央と前裾の縫目とを合せて縫つたら折りを前裾へ返して隠蔽をします。

(3) 前身と裾の縫ひ合せ

後裾の裾口と前身の裾口とを合せ、前裾の三角の山と前身の股上止りとを合せ、裾口から縫ひ上つて前身の方へ折りを返へし隠蔽をします。

(4) 後身と後裾の縫ひ合せ

後身及後裾の各々折りに縫ひ代を合せて縫ひ、折りを後身にさへして隠蔽をします。

(5) 前・後・股上の縫ひ方

1. 前・後・共に股上の縫ひ合せ(各々左右を合わせる)折りを右側の方へ折して隠蔽をします。
2. 股股上縫代は5.13.3となりませう。左側の縫代を固めて隠し縫ひ(着物縫代始末の様に)をなし、下の方を三角に折り込んで両側を折つけませう。(居敷當代用をします)

一、前裾上り図



婦人もムへの作り方 裁縫科(原文を左からの裏記で記載)



当時の職員 (昭和17年)



校舎全景



創立35周年記念誌表紙



35周年記念校舎改築落成式



献呈式場面 (校長授受)



記念體育大会



天津高女の制軍競争

昭和13年頃から丈夫な身体育成が女子教育の主要なとされ、天津高女では冬季になると、恒例から深遠までの制軍競争が年中行事とされ、以来戦時中継軍高女された。今もこの事に思い出のある中卒以上の人が多い。写真は昭和13年冬の制軍競争。



旗行列

昭和12年、日華事変は中国全土に拡大され、日本軍は中国の主要な都市を次からつぎへと占領した。そのたびに、救急部隊のため、天津市内で青少年は動員され、目の光の子供を手に打ち振り、軍慰を市内を回った。写真は南京陥落の時の、大手口を通過する天津高女の旗行列。



竹槍訓練の女学生

昭和15年になると空襲が激しくなり、本土決戦が現実のものと考えられた。「一億国民火玉」の標語のもとに、女学生や婦人までもが竹槍訓練に参加した。



慰問隊をつくる女学生

昭和12年日華事変がおきて以降、慰問隊を戦地の兵隊に送るのは戦後の様めとして実行された。高女でも、戦争が拡大するともに、その回数が増えた。しかし昭和16年以後は慰問隊に入れる物質も乏乏して、慰問隊を作るのさえままならぬようになった。写真は昭和15年頃。

（昭和十八年）
四月
（昭和二十二年）
四月
補習科を専攻科とする。
六三制施行、専攻科廃止、五五生
進学し一年生をなし。

九月三日付の「佐賀新聞」には「勤勞功教育を顕現、佐賀縣第三次生徒勤勞員計画成る」として、各中等学校などの相当工場を次のようにあげている。

佐賀中学（大日本化学）、小城中学（日東航機）、鹿島中学（第二十一空廠）、唐津中学（大日本航機）、唐津西中学（日清製粉）、武蔵中学（件島）、鹿谷中学（川南）、鹿島立教（第二十一空廠）、唐津商業（唐津鉄工所）、佐賀工業（内田）、有田工業（岩屋）、鳥橋工業（第二十一空廠）、佐賀高女（戸上）、鹿島高女（田嶋）、唐津高女（大日本航機）、武蔵高女（香蘭社）、小城高女（日東航機）、伊万里高女（岩屋）、鳥橋高女（太刀洗）、神埼高女（片倉製糸）、成美高女（大和紡績）、清和高女（三菱兵衛）、佐賀女大（日東航機）、鳥橋青年学校（片倉製糸）、小城青年学校（大和紡績）、有田青年学校（岩屋）、武蔵青年学校（大和紡績）、東山代国民学校（大伊万里）、神陽学園（日華ゴム）

この割りあては、学校によつては一部変更があつたようであるが、鹿谷中学は川南造船所となつて、五、四年生は浦の崎、川南、造船所、三年生は南風崎での土木工事、二年生は戸上電機であつた。五、四年生はのち佐賀県の海軍工廠へ、三年生は佐賀保の日本に転属している。一年生は、市内の家庭縫製作業に従事した。

この時、生徒の受け入れ側に要望事項としてた

れた点は次の七点であつた。

- 一、心身の発達を図り、保健に留意すること。
- 二、県内勤勞員においては、通勤を短縮にすること。
- 三、作業は一日八時間とし、その間食事、休憩に各一時間を与えること。残業は一ヶ月に十日以内とし、深夜業は認めない。又、休日及び四回設けること。
- 四、国民学校児童の勤勞に當つては、青少年団単位、又は学校単位の隊組織とすること。
- 五、保健衛生に關しては、特別の注意を払うこと。
- 六、保護者並に受入者は、処置に十分留意し、生徒として安心して勤勞に挺身せしむる様、適切な方法を講ずること。

七、勤勞生徒をして卓因勤勞に徹せしめること。生徒勤勞勤勞員に出動した生徒たちは、ただ勤勞するのみにならず、引率の教師による「工場成程」が評価された。昭和十九年九月十二日より翌二十年八月二十日まで大和紡績佐賀工場に勤勞勤勞員された成美高等女学校の生徒は、縫製部（織上、織布、機織、精紡、精紡、裁断）、織機部（機織保全、初紡、打綿、精紡、ローラー、仕上）、織機部（織布、保全、織機部）（準備、検査）に分かれて勤勞に従事した。成績は出欠状態、秀・優・良・可・不可の五分階評価され、例えは「優、真綿ナル作業量ナリ、生活態度機嫌メテ良シ、綜合力実践力二高ム」などと表わした。

佐賀高等学校においては、昭和十九年五月から三年生が川南造船所へ、同年七月から二年生が長崎造

船所へ生徒勤勞員された。一年生は十一月に福対作業のため県下各地に勤勞員されていった。

「生徒勤勞令」によつて、県内及び長崎県へと勤勞勤勞された生徒たちの中には、終戦まで男女生徒一六六人が犠牲となり、四六人が生涯残る傷を負つた。

唐津高女4年生

——即編——

唐津高女4年生の勤勞員は、昭和十九年九月十二日より翌二十年八月二十日まで大和紡績佐賀工場に勤勞した。この勤勞員は、縫製部（織上、織布、機織、精紡、精紡、裁断）、織機部（機織保全、初紡、打綿、精紡、ローラー、仕上）、織機部（織布、保全、織機部）（準備、検査）に分かれて勤勞に従事した。成績は出欠状態、秀・優・良・可・不可の五分階評価され、例えは「優、真綿ナル作業量ナリ、生活態度機嫌メテ良シ、綜合力実践力二高ム」などと表わした。

佐賀高等学校においては、昭和十九年五月から三年生が川南造船所へ、同年七月から二年生が長崎造

生徒勤勞員 秋多田の飛行機工場で四年の古賀さん作業中に撮影



サッカーの運動 (昭和20年)



校内スナップ (昭和30年)



男学生は何処へ! (昭和25年)



校内スナップ (酒校舎) (昭和40年)

学校の沿革

社会情勢

【昭和二十四年】

四月

綜合男女共学となり旧第一
高田第一高を合併して鹿津
高等学校と改称。旧一高を東
校舎(全日)・三年～旧二高を
西校舎(全日)・一年～東校舎一三
年定時・通信とする。併設
中学校廃止。副校長制を置く。

【昭和二十五年】

四月

一年生入学定員五六〇名(全
日)・定時五〇名。

六月

校舎・バグジ制電。

十月

校章制定。

十二月

職員住宅三戸PTAにて建
築。

【昭和二十六年】

四月

新本校舎竣工(定時制一年
定員一〇〇名普通科農業科
家庭科)

十月

職員住宅一戸復興会にて建
築。

【昭和二十三年】

一月

ビルマ独立。参謀事件。
ガングー騒動。

三月

芦田内閣成立。

十一月

東京裁判判決。

十二月

開議。世界人類宣言採択。

【昭和二十四年】

四月

NATO発足。

七月

下山事件。三黨事件。

十一月

湯川秀樹博士にノーベル物
理学賞。

【昭和二十五年】

二月

中ソ同盟相互援助条約締結。

六月

朝鮮戦争勃発。

十月

朝鮮戦争。中国共産軍参戦。

【昭和二十六年】

三月

イラン。石油国有化。

四月

マッカーサー連合軍最高司
命官解任。



文化祭（昭和31年）



（昭和28年）



合唱の集（昭和29年）



体育祭（昭和31年）

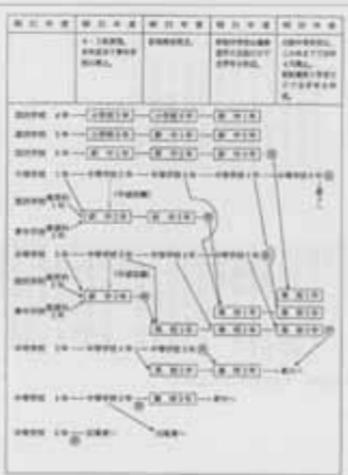
1.六・三・三・四制の導入

いわゆる「戦時特例」は、「中等学校令」が終戦により昭和21年2月に改正されて、修業年限は5年に戻った。昭和17年の入学者は、昭和21年3月に4年卒業（同慶会名簿では済中47回）と昭和22年3月に5年卒業という二つの型に分かれた。昭和18年の入学者は5年制で卒業した。

昭和22年度当初から実施された、「教育基本法」と「学校教育法」は戦後の学校教育の基本法制であるが、旧制の中等学校の入学試験は昭和21年の入学者まで実施されている。

二法に基づく六・三制の実施・移行に合わせて昭和22年度は入学者の募集が停止されたのだがその当時の在学者は、旧中生、新中生（併設中学校）、前高生が混在していたことになる。外地の中等学校から学年をおくらせて転入した者、国民学校卒業で併設中学校に編入した者、軍関係の学校等から復帰した者等も少なからぬ数であった。

次に示す図表は、この時期の一般的経路を示すもので、「夜間学校教育史」から引用した。



あがったぞッ



きのう高校入試合格発表

県下高校廿二校に

推薦生と選別合格が発表

本県公立の高等学校二十二年制の各校に、推薦生と選別合格者が発表された。各校の合格者数は、推薦生は、男子、女子、計、選別合格者は、男子、女子、計、である。各校の合格者数は、推薦生は、男子、女子、計、選別合格者は、男子、女子、計、である。

位置新聞 昭和31年3月22日付



校内スタッフ、紙を讀んでいるのでしょうか。(昭和29年)



不和学 (昭和25年)



グラウンドから眺めた校舎（昭和30年）



図書館（昭和36年）

学校の沿革	社会情勢
<p>【昭和三十一年】</p> <p>四月 廣津西高等学校として発足（廣津高等学校を東西に分體独立）全日制普通課程（二二〇名）実科課程（八〇名）定時制東本分校（普通科、実科）設置。</p> <p>五月 校舎、バツジ制定。</p> <p>【昭和三十三年】</p> <p>一月 運動場拡張工事開始。</p> <p>四月 定時制東本分校の理科実習停止（普通課程五〇名、実科課程五〇名）。</p> <p>六月 創立五〇周年記念式典挙行（十二月記念誌発行、校歌制定発表）。</p> <p>【昭和三十三年】</p> <p>四月 全日制定員増員（普通課程一五〇名、実科課程一〇〇名）。</p> <p>九月 宿舎改築（第一）西側女子宿舎新築完成。（市町村、県奨励）。</p>	<p>【昭和三十一年】</p> <p>十月 砂川事件（二十五日）日ソ国交回復。</p> <p>十一月 第十六回五輪マルボロン大会開催。</p> <p>十二月 国連加盟実現、石巻内閣成立。</p> <p>【昭和三十三年】</p> <p>一月 酒橋・昭和基礎開校。</p> <p>二月 東内閣設立。</p> <p>八月 東海村に「原子の火」。</p> <p>十月 安保理非常任理事国推薦。ソ連、世界の人工衛星打ち上げ。</p> <p>【昭和三十三年】</p> <p>一月 インドネシアと平和条約締結協定に調印。</p> <p>八月 米、人工衛星第一号打ち上げ。</p> <p>八月 光澤湖ノートルラスが湖航のままの橋点通過。</p> <p>十月 日米安保改定交渉へ。</p>



浪津の海 (昭和36年度)



ソフトボール部 (昭和36年卒業アルバムより)



女子バレー部 (昭和36年卒業アルバムより)



ソフトボール部 (昭和31年卒業アルバムより)



男子バレー部 (昭和36年卒業アルバムより)

学校の沿革

社会情勢

昭和三十三年

十一月

音楽室新築完成(同窓会
十六日落成式行われ)

昭和三十四年

三月

予ニスコート完成(浪津鉄
工所土地借出)

昭和三十五年

二月

普通教室(西)新築、「振興
会」を建築

昭和三十六年

四月

親木分校竣工

昭和三十三年

一月

ソノ浦、月口ケウト行を上げ、
四月

会本部(橋)建築

長次郎(長)志賀担任、後任

昭和三十五年

一月

日本郵政省と行政協定
調印、北杜市結成、三池争議

五月

東西国語会議員バリエで閉く、

昭和三十六年

二月

「風通草紙」で城中事件、

六月

美ソ新稿、ウイーンで会談

八月

重光がベルリンに「東西の
壁」を建築

昭和三十七年

八月

原水禁世界大会閉幕



ウラス集合写真 (昭和36年卒業アルバムより)



演劇部発表会 (昭和36年卒業アルバムより)



体育祭 (昭和36年卒業アルバムより)





体育部 (昭和37年)



文化部 (昭和37年)



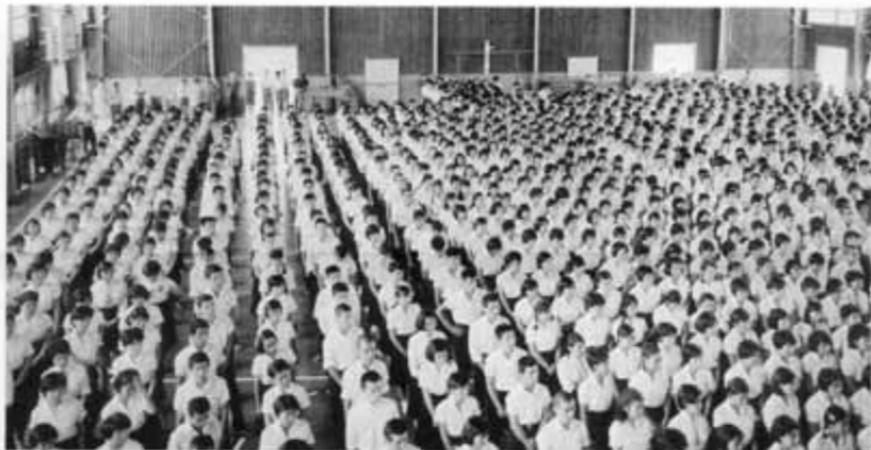
クラスマッチ (昭和30年)



授業の時間 (昭和30年)



異とこはなせり



生徒集会（昭和30年）



国書館（昭和30年 卒業アルバム2号）

	学校の沿革	社会情勢
十一月	<p>【昭和三十八年】 十一月 定員増加（普通科三〇名、家政科一〇名） 体育館改築（熊本市町村振興会）一日落成式、ステージ廻廊一式完成。（同窓会） 【昭和三十九年】 十一月 講堂を普通教室二に改造、体育館への入り廊下及併用シャワー、普連完成。 【昭和四十二年】 四月 定員減少（普通科三二名、家政科一〇四名） 【昭和四十二年】 四月 旧講堂（改称教室二）解体、プレハブ普通教室二完成、定員減少。（普通科三〇六名、家政科一〇二名） 十月 校舎新築（同窓会寄贈）</p>	<p>【昭和三十八年】 十一月 ケネディ米大統領、ダラスで暗殺。 【昭和三十九年】 十月 東海通商新協定調通、第十八回五輪東京大会開催。 十一月 佐藤内閣成立、公明党結成。 【昭和四十年】 二月 課外社結成。 米軍艦の北へトナム爆撃開始。 六月 日韓条約締結。 七月 米マリナー四号、火災を撮影。 十月 朝木俊二（朝木七）ノイベル賞。 【昭和四十二年】 一月 インド首相にガンジー夫人。 六月 アジア太平洋洋協議会（A.S.P.A.C.）設立。 十月 ベトナム反戦統一スト。 八月 第三次中東戦争（六日間）。</p>



弓道部 (昭和41年 卒業アルバムより)



野球部 (昭和41年 卒業アルバムより)



調理実習 (昭和41年 卒業アルバムより)



花を育てよう (昭和41年 卒業アルバムより)



下校風景 (昭和41年 卒業アルバムより)



高津道 (昭和45年 卒業アルバムより)



タイプ室 (昭和45年 卒業アルバムより)

学校の沿革

社会情勢

【昭和四十三年】

四月

定員減少。(普通科二五四名)

【昭和四十三年】

六月

小笠原島開港

【昭和四十三年】

六月

大隈で万国博覧会、新日鉄製

【昭和四十三年】



授業風景（昭和45年 卒業アルバムより）



授業風景（昭和45年 卒業アルバムより）



体育館（昭和45年 卒業アルバムより）



普通部合唱（昭和45年 卒業アルバムより）



ウラスマツチ (昭和40年 卒業アルバムより)



試験の風景 (昭和40年 卒業アルバムより)



ウラスマツチ (昭和40年 卒業アルバムより)



鐘山登山 (昭和46年 卒業アルバムより)



運動会（昭和46年 卒業アルバムより）



写生大会（昭和46年 卒業アルバムより）



修学旅行 (昭和45年 卒業アルバムより)



生徒会本部 (昭和46年 卒業アルバムより)



タイピング部 (昭和46年 卒業アルバムより)



役員部 (昭和46年 卒業アルバムより)



表彰式 (昭和47年 卒業アルバムより)



七夕 (昭和47年 卒業アルバムより)



授業風景 (昭和47年 卒業アルバムより)



授業風景 (昭和47年 卒業アルバムより)



調理実習 (昭和47年 卒業アルバムより)



調理実習 (昭和47年 卒業アルバムより)



俳諧会 (昭和47年 卒業アルバムより)



お茶会 (昭和48年 卒業アルバムより)

学校の沿革

社会情勢

【昭和四十八年】

三月

体育館完成(体育場増築) (四八四)

【昭和四十九年】

三月

プレハブ教室(二室)増築
(八五四) 園校舎建設用敷料
運送完了

四月

普通科一学級増(四五名)
(普通科三一五名、実科科
九〇名)

十二月

園校舎整地工事着工、第二
排水工事(五十年三月完成)

【昭和五十年】

三月

プレハブ教室(二室)増築
(二八四四)

五月

現校舎増築工事完了。

【昭和四十八年】

八月

金大中東亞で四回

十月

第四次中東戦争(十月
二十二) 終結

十一月

江崎再任(博士)ノイベル賞
園監石油資本五社、原油の
供給削減、石油急騰等目化

十二月

【昭和四十九年】

十二月

三次内閣成立

四月

【昭和五十年】

四月

サイゴン陥落

七月

沖縄海洋博開幕

【昭和五十一年】

四月

天安門事件

七月

口フキード事件で田中前首相
相辞任

八月

李沢東中国主席死去

十二月

福田内閣成立

【昭和五十二年】

三月

インド総選挙、ガンジー大敗



文化祭 (昭和40年 卒業アルバムより)



水泳 (昭和40年 卒業アルバムより)



登校風景 (昭和40年 卒業アルバムより)



女子バス部 (昭和40年 卒業アルバムより)



男子バス部 (昭和40年 卒業アルバムより)



美術の授業 (昭和40年 卒業アルバムより)



ジュドーフェーズA部 (昭和40年 卒業アルバムより)



体育部 (昭和40年 卒業アルバムより)





授業風景 (昭和49年 卒業アルバムより)



文化祭 (昭和49年 卒業アルバムより)



旧体育館内 (昭和49年 卒業アルバムより)



水泳の授業 (昭和50年 卒業アルバムより)



体育祭 (昭和50年 卒業アルバムより)



漢書大会 (昭和50年 卒業アルバムより)



調理実習 (昭和51年 卒業アルバムより)



調理実習 (昭和51年 卒業アルバムより)



ポンプ (昭和51年 卒業アルバムより)



掃除の時間 (昭和51年 卒業アルバムより)



文化祭 (昭和51年卒業アルバムより)



体育祭
(昭和51年卒業アルバムより)





文化祭 (昭和52年 卒業アルバムより)



文化祭 (昭和52年 卒業アルバムより)



体育祭 (昭和52年 卒業アルバムより)



旧校舎（昭和52年卒業7A/14.24）



旧体育館（昭和52年卒業7A/14.24）



授業風景（昭和52年卒業7A/14.24）





旧校舎（昭和53年卒業アルバムより）



授業風景（昭和53年卒業アルバムより）



文化祭（昭和53年卒業アルバムより）

学校の沿革

社会情勢

【昭和五十三年】
三月

現校舎 管理室新機 特別
教室棟建築完了

【昭和五十四年】
三月

新校舎、教室棟、体育館
完成 運動場完成、二十四日現
校舎に移転完了

五月
まつろ会館完成

十月
創立七〇周年記念式典
【昭和五十五年】

一月

陶芸小室、可達場完成
【昭和五十六年】

二月
食庫完成

三月
校舎整備（パソコンネット、
抄写）完成

四月
定員減少、(普通科)二七〇名
定数科(〇名)

八月
自転車室増設

十一月
プール完成

【昭和五十三年】
八月

日中友好友好条約調印
十一月

【昭和五十四年】
六月

大平内閣成立
東京で第五回先進国首脳会
議開催(十一月十九日)

【昭和五十五年】
五月

大平内閣不信任案可決、総
選挙へ

【昭和五十六年】
一月

イラン・イラク戦争本格化
中国で江青、張春橋に死刑
判決

四月
突、沈没

十月
福井県一教団にノイベル賞



登攀旅行 (昭和53年 卒業アルバムより)



海水の授業 (昭和53年 卒業アルバムより)



建設中の宿舎舎 (昭和53年 卒業アルバムより)



ヨット大会開会式 (昭和53年 卒業アルバムより)



ヨット部 (昭和53年 卒業アルバムより)



おく人形 (昭和54年 卒業アルバムより)



体育祭 (昭和54年 卒業アルバムより)



駒山登山 (昭和54年 卒業アルバムより)



田代舎の風景 (昭和54年 卒業アルバムより)



登校風景 (昭和55年 卒業アルバムより)



登校風景 (昭和55年 卒業アルバムより)



授業 (昭和55年 卒業アルバムより)



下校風景 (昭和55年 卒業アルバムより)



鏡山登山 (昭和55年 卒業アルバムより)



鹿守餅行 (昭和55年 卒業アルバムより)



文化祭 (昭和55年 卒業アルバムより)



高校野球 (昭和55年 卒業アルバムより)



完成直後の校舎（昭和55年 卒業アルバムより）



鐘山登山（昭和55年 卒業アルバムより）



創立70周年記念式典（昭和55年 卒業アルバムより）





写植祭 (昭和55年 卒業アルバムより)



登校風景 (昭和57年 卒業アルバムより)



旧校舎全景 (昭和57年 卒業アルバムより)



文化祭 (昭和57年 卒業アルバムより)



舞育祭 (昭和57年 卒業アルバムより)



文化祭 (昭和57年 卒業アルバムより)



学校全景（昭和61年卒業アルバムより）

学校の沿革	社会情勢
<p>【昭和五十七年】 十月 部室新築。</p> <p>【昭和五十八年】 三月 功主町跡地旧女学校、西高 校記念碑建立。</p> <p>【昭和五十九年】 一月 部室増築。</p> <p>【昭和六十一年】 一月 校地整備、「バックネット増 設」。</p> <p>【昭和六十二年】 三月 A〇周年記念植樹（一宮校道 路花壇沿道）。</p> <p>三月 A〇周年記念植樹（一宮 岡 堂前）。</p> <p>十一月 創立八〇周年記念式典。</p>	<p>【昭和五十七年】 十一月 中曽根康弘氏（十二代首相）。</p> <p>【昭和五十八年】 九月 大韓航空機がサハリン上空 でソ連機と衝突し墜落する。 十二月 第二次中曽根内閣、新自由 クラブと連立。</p> <p>【昭和五十九年】 十月 インディラ・ガンジー・イ ンド首相暗殺。</p> <p>【昭和六十一年】 八月 日経ジャンボ機、群馬県御 業護山に墜落し、四人生存、 五二〇人死没。</p> <p>【昭和六十二年】 二月 アキノ比大統領就任、マル コス亡命。</p> <p>五月 東京で第十二回先進国首脳 会議。</p> <p>十一月 三徳山が大噴火。</p> <p>【昭和六十二年】 四月 国鉄分割・民営化発表。</p>



体育祭 (昭和61年 卒業アルバムより)



授業風景 (昭和61年 卒業アルバムより)



授業風景 (昭和61年 卒業アルバムより)



野球部 甲子園へ
(昭和42年 卒業アルバムより)





授業風景
[昭和62年 卒業アルバムより]



体育祭 [昭和62年 卒業アルバムより]



修学旅行 [昭和62年 卒業アルバムより]



高校総体壮行会（平成2年 卒業アルバムより）

学校の沿革	社会情勢
<p>【昭和六十三年】</p> <p>十一月 豊地（ラウンド南地）完成 （二一九七五〇五出）</p> <p>十二月 校舎拡張工事開始 【平成元年】</p> <p>十一月 第二グラウンド完成 【平成二年】</p> <p>三月 C A I 導入</p> <p>四月 定員増（普通科二七六名 実科科九〇名）</p> <p>七月 冷暖房機設置（図書館三 室）</p> <p>十月 第二グラウンド植球ネット・ バックネット完成 【平成三年】</p> <p>三月 体育倉庫増設</p> <p>四月 学科改編（普通科三一五名 普通科六クラスに、普通科 英語コース・クラス新設 実科科専修科）</p>	<p>【昭和六十三年】</p> <p>三月 青島トンネル開業</p> <p>七月 東京湾で自衛隊潜水艦と釣 り船衝突（乗士九人が衝突） 【平成元年】</p> <p>一月 昭和天皇が退去、皇太子明仁 親王が即位（平成）が開始</p> <p>四月 消費税がスタート</p> <p>五月 中国の民主化運動（北京で 百万人規模のデモ）</p> <p>十一月 ベルリンの壁崩壊 【平成二年】</p> <p>八月 イラク軍がクウェートに侵襲</p> <p>十月 東西ドイツが統一（ドイツ 連邦共和国が誕生） 【平成三年】</p> <p>一月 米軍など多国部隊がイラク・ クウェートの空襲開始（湾 岸戦争地上戦に突入）</p> <p>六月 雲仙・普賢岳で大規模火砕 流が発生</p>



丁卯風流 (平成2年卒業アルバム2号)



祝会部 (平成2年卒業アルバム2号)



鎮山登山 (平成2年卒業アルバム2号)



祝会部 (平成2年卒業アルバム2号)



クラス集合写真(平成9年卒業アルバムより)



授業風景(平成9年卒業アルバムより)

学校の沿革

社会情勢

【平成四年】

三月

し・しシステム導入

【平成五年】

一月

家庭科開科式

四月

定員増(普通科三二〇名)

一学年八クラス(普通科七

クラス、英語コースークラ

ス)

【平成六年】

四月

数学科教科配置校となる

【平成七年】

十一月

冷房設備設置(職員室)

【平成八年】

十一月

管理系職種・体育部外編改

修

【平成九年】

四月

定員減(普通科二八〇名)

一学年七クラス(普通科六

クラス、英語コースークラ

ス)

十月

創立五〇周年記念式典

【平成四年】

七月

参院選投票開票、自民が改進黨

席を上回る六十九議席獲得

【平成五年】

六月

自民党を離党した羽田達が

【新生党】結成

【平成六年】

六月

ニューヨーク州島市場で初

めて「ドル」百円を切替

【平成七年】

一月

阪神大震災、年末までに死

者六千人を超える

【平成八年】

三月

都心の露店地下鉄で猛毒ガス

サリンがまかれ、死者十一人

被害者多数

【平成九年】

十二月

ヘルズの露転、リファで武蔵ア

リラが日本大使館を襲撃

【平成九年】

二月

中国の経済実力者、鄧小平

が九十二歳で死去

【平成九年】

八月

パリ滞在中のダイアナと英皇

太子妃が自動車事故で死亡



調理実習 (平成9年 卒業アルバムより)



調理実習 (平成9年 卒業アルバムより)



調理実習 (平成9年 卒業アルバムより)



授業風景 (平成9年 卒業アルバムより)



ホーム大会 (平成9年 卒業アルバムより)



短距離 (平成9年 卒業アルバムより)



観山登山 (平成9年 卒業アルバムより)



運動会 (平成9年 卒業アルバムより)

学校の沿革

社会情勢

【平成十年】

一月

冷極寒波計測 (通信室)

四月

定員増 (普通科三百二十名)

一学年八クラス (普通科七

クラス、英語コース一クラ

ス)

教員一人配置校となる。

【平成十三年】

四月

定員減 (普通科二百八十名)

一学年七クラス (普通科六

クラス、英語コース一クラ

ス)

【平成十年】

二月

長野冬季五輪開幕、金五個を

含む史上最多のメダル獲得。

八月

日本が初出場のサッカード

杯フランス大会開幕。

【平成十三年】

九月

第二十七回五輪シドニー大

会開幕、産道の田村、女子

マラソンの高橋らが先

十月

白川英樹氏がノーベル化学

賞受賞。

【平成十三年】

八月

米中経済師テロ発生、旅客

機二機がニューヨークのフ

インタワービルに突入。



鎌山登山 (平成9年卒業アルバムより)



授業風景 (平成9年卒業アルバムより)



祝辞 (平成9年卒業アルバムより)



クラスマッチ (平成9年卒業アルバムより)



祝辞 (平成9年卒業アルバムより)



鎌山登山 (平成9年卒業アルバムより)



スキー修学旅行（平成14年卒業アルバムより）



授業風景（平成14年卒業アルバムより）



授業風景（平成14年卒業アルバムより）

学校の沿革

社会情勢

〔平成十四年〕

五月

ソウルでアジア初の日韓員
間連携のサッカーのワールド
ドカップ（W社）開会式

八月

住民基本台帳ネットワーク
が稼働開始

九月

小泉首相と北朝鮮の金正日
総書記が初の日朝首脳会談

〔平成十五年〕

一月

米航空宇宙局（NASA）の
無人探査車（スピリット）
が火星着陸に成功

三月

九州新幹線が鹿児島中央―
新八代間で開業



夏祭り (平成14年 卒業アルバムより)



夏祭り (平成14年 卒業アルバムより)

学校の沿革

社会情勢

【平成十八年】

SEIHO 研究校に指定

九月

特別教育種三改修工事

【平成十九年】

十一月

まつら同窓会より体育館建
修工事

創立五周年記念式典

百萬年記念誌発行

【平成十七年】

四月

総務のJ・R西日本鉄道理事

百七人が死亡

九月

貴族院で小泉自民党が歴史

的大勝

十一月

耐震強度の偽造で不安広が

る

【平成十八年】

二月

トリノ五輪、フィギュア滑

川勢香選手が「金」

五月

インドネシアのジャワ島でM

6.8の地震、死者約七千人

十月

北海道日本ハムファイター

ズ、四十四年ぶり日本一

【平成十九年】

二月

エルニーニョ現象の影響で

記録的乾燥

三月

鹿児島県沖でM6.9の地震

七月

基礎年金番号に統合されず

害に及いたら千万件の記録

が発覚



県高校総体入場行進（平成14年 卒業アルバムより）



読書人（平成14年 卒業アルバムより）



野球部（平成14年 卒業アルバムより）



クラスマッチ（平成14年 卒業アルバムより）



クラスマッチ（平成14年 卒業アルバムより）



短距離 (平成14年卒業アルバムより)



短距離 (平成14年卒業アルバムより)



練習 (平成18年卒業アルバムより)



自転車風情（平成14年 卒業アルバムより）



夏の学習会（平成14年 卒業アルバムより）



文化祭（平成18年 卒業アルバムより）



楽団部（平成18年 卒業アルバムより）



柔道部 (平成18年 卒業アルバムより)



演劇部 (平成18年 卒業アルバムより)



ネットボール試合 (平成18年 卒業アルバムより)

フ振舞に幾許かの貢献ができたことを喜んでおります。

(二) 現在、佐賀県ソフトボール協会の顧問を務めていますが、自分の時間が自由に持てるようになったので、二十年間は白鷺唱歌会と川柳塔社の会員として呆け討ちのために文芸活動をしております。私が昨年七月に佐賀県知事賞を受けた短歌をご紹介します。

この歌は唐津西高校に在学中の入試の時の情景を詠んだ作品です。

「終了のチャイムが鳴りて 願上げし 子が微笑みぬ ほんの一瞬」
(二)ここで皆さんにご紹介したいことがあります。

坊主町の旧校舎に勤務していた教職員のが「七夕会」と称して毎年七月七日に開催されております。今年で第十八回になりました。

私は第十二回から昨年の第十七回までお世話をさせて頂きました。佐賀県内は勿論、全国的にも珍しい会だと自負しております。

開宴の前は約三十分、文学のお話、人形浄瑠璃の鑑賞など会員に楽しんでおります。

お互いに久闊を叙し近況を披露しながら、楽しく進みますが最後は校歌「梅豆羅の里の歴史の跡」の大合唱で解散しております。

いつかは消滅する会です。会の終焉まで微力ながらお世話するつもりです。

(四) 昨年八月、全く予兆なしに脳梗塞を発病、言語障害の機能回復のためのリハビリに週に一回、龍の河野病院に通っております。

過去、昭和五十七年にくも膜下出血で、平成十一年には大腸ガンで手術を受けました。今度の脳梗塞と重傷で致命的な三つの病気を克服できたのは「自分で自分を褒めてやりたい。」気持ちです。

この原稿のタイトルを「生かされて傘寿」としたのも、長い間お世話になったことへの感謝の意を皆様にお伝えしたかったからです。



分 掌

分掌区分と所属職員名 (○印は主任)

校長	教 育 部	教育主任 (山下)	部 会	○部 会 課 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長			
			企画・行事	運動・報告・記録			
			時 間 制	山下・大島・渡邊・山口・金丸			
			転 出 入	渡邊 山口			
			教育課程	山下・大島・渡邊			
			教科書・教材	金丸			
			奨 学 生	松野・手塚・杉谷			
			教育特課・課題	手塚 橋本・原			
			成績処理	杉谷・内山・原			
			情報教育	大島・杉谷・内山			
校長	生徒指導部	生徒指導主事 (副 員)	部 会	○副 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長			
			企画・運営	副島・中村・月光			
			課 長 兼 部 会 課 長	副島・中村・月光			
			バイク・自転車関係	副島・中村・月光			
			アルバイト	副島・中村・月光			
			拾得物	佐野・古田			
			制服	副島・中村			
			登校遅刻指導	月光・佐野			
			遅刻・欠席	西野・久田・熊谷			
			写 真	西野・久田・熊谷			
校長	進路指導部	進路指導主事 (高 橋)	部 会	○課 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長			
			企画	高橋・松原・熊谷・本山			
			特課・土曜セミナー	下村・渡上・本山・中森・田中			
			各種テスト	渡上・下村・本山・中森・田中			
			文書・会計	渡上・松原・増本			
			調査・統計	高橋・本山・中森・田中・渡上・高橋			
			パソコン係	(L A S P) 高橋・渡上・本山・中森・田中			
			会 務 員	(F I S E) 渡上・西野・本山・中森・大原・田中			
			総 務 課	森・福原・本山・中森・田中			
			総合学習	下村・福原・森・本山・中森・田中			
事務長	保健部	保健主事 (池 田)	部 会	○部 会 課 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長			
			保健教育	古川・池本・原口・池田			
			管理	古川・池本・原口・池田・佐藤・田中			
			安全・福祉生	原田・古川・池本・原口			
			食 育	池田・佐藤			
			特別支援	古川・池田・田中			
			教育相談	福原・池田・古川・原田・佐藤・田中・高橋・久田・熊谷			
			事務長	図書研修部	図書研修主任 (兼 1) 司 書 教 諭 (兼 1)	部 会	○部 会 課 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長 兼 部 会 課 長
						企画	藤江・藤江・黒木・中村・田代
						全 員	黒木・田代
管 理	藤江						
図書指導	久田・西野・藤江						
図書委員指導	藤江・黒木・中村・田代						
芸術鑑賞	藤江・黒木						
イングリッシュキャンプ	高平・藤江						
海外留学研修	藤江・高田・藤江						
修学旅行	西野・久田						
事務長	事務主任 (古 賀)	庶 務	○古賀・高田・野口				
		管 理	古賀				
		部 会	古賀・藤江・野口				
		調 理	田代				
		備 考	倉光・平田				
		学校評議員	学校評議員	部 会	○古賀・高田・野口		
				管 理	古賀		
				部 会	古賀・藤江・野口		
				調 理	田代		
				備 考	倉光・平田		

職名	氏名	担当教科	学年	校務分掌	部活動顧問
校長	竹森唯幸				
教頭	松本裕史				
事務長	森永文治				
教諭	山下康孝	国語		○教務	演劇写真
＊	吉田香	＊			
＊	久田 穂	＊	○2年	○国語 ○英語 ○国書	弓道
＊	田中幸樹	＊	3-6	運動指導	ボート
＊	神田慈美	＊			
＊	彌富公成	＊	3-4	生徒指導	演劇
＊	下田華世	○＊	1-4	生徒指導	弓道文芸
＊	小野正夫	地歴公民			
＊	福富陽子	＊		運動指導	ボランティア
＊	野上登志治	＊		教務	バドミントン
＊	渡邊秀一	○＊		教務	サッカー
＊	森 博子	＊		運動指導	華道
＊	福本竜一郎	＊	2-5	教務	バレーボール
＊	熊谷正実	数 学	○3年	○生徒指導 ○保健	サッカー
＊	西野利彦	＊	○1年	○生徒指導 ○英語 ○国書	野 球
＊	木山初雄	＊	1-3	運動指導	卓 球
＊	佐藤啓明	○＊	2-2	保 健	バドミントン
＊	内山河文	＊	1-2	教 務	テ ニ ス
＊	黒田慎一郎	＊	3-5	保 健	テ ニ ス
＊	大島恒平	＊		☆教 務	バスケットボール
＊	高橋篤美	理 科		○運動指導	理科 陸上
＊	松野正彦	＊	3-1	教 務	剣 道
＊	池田 淳	＊		○保 健	バドミントン
＊	田中佳司	＊	1-5	保 健	ヨ ッ ト
＊	杉谷 輝	○＊	2-1	教 務	ソフトテニス
＊	井上 宏	保 体			ヨ ッ ト
＊	岡島 錦重一	＊		○生徒指導	バスケットボール
＊	松本弘之	＊			ボ ー ト
＊	宮川和幸	＊		教 務	野 球
＊	手塚芳美	○＊	1-6	教 務	バスケットボール
＊	安藤明子	音 楽			
＊	藤戸佳子	英 語		○国書 ○国書研修 ○国書教諭	書 道
＊	諸江 善文	＊		国 書 研 修	英 語

○印主任 ☆印 情報システム担当 ○印 特別支援教育コーディネーター

職員

職名	氏名	担当教科	担当学年	校務分掌	部活動顧問
教諭	中村 信	英語	2 - 4	生徒指導	ソフトテニス
・	原 健一	・	3 - 2	教務	弓道
・	廣 渡 聡子	・		保健	柔道
・	鶴 田 順一郎	・	3 - 3	図書研修	ソフトボール
・	中 森 一彰	○・	2 - 6	進路指導	バレーボール
・	高 田 要 紀	・	2 - 3	図書研修	吹奏楽
・	高 平 奈津子	・	1 - 1	図書研修	ソフトテニス
・	中 村 厚 子	○家庭		生徒指導	音楽 家庭科
養護教諭	古 川 尚 美			○保健	
実習教師	出 本 幸 子			保健	卓球
主査	前 田 美 澄			会計・庶務	
・	古 賀 俊 郎			○理財・会計・庶務	
主事	野 口 ほのか			会計・庶務	
・	田 代 睦 美			図書	
副主任職員	合 光 厚 子			用務	
用 務 員	平 田 孝 二			用務	
講 師	佐 野 努	地歴公民		生徒指導	野球
・	高 嶋 章 一 郎	○美術		生徒指導	美術
・	黒 木 理 志	英語		図書研修	卓球
・	金 丸 朝 美	国語		教務	テニス
・	月 光 康 行	音楽		生徒指導	吹奏楽
・	山 口 崇	地歴公民		教務	陸上写真
・	下 村 忠 義	国語		進路指導	陸上
・	岡 上 望	数学		進路指導	ソフトボール
・	中 村 郁 恵	保健		図書研修	ボート
・	吉 田 伸 司	保健		生徒指導	コック
養護助教諭	原 口 有 宇 子			保健	
非常勤講師	熊 本 晴 文	書道			
	渡 口 洋 子				
進路助手	増 本 あゆみ			進路指導	

○印 主任 空印 情報システム担当 ○印 特別支援教育コーディネーター

学校医等

専 門	氏 名
校 医	中 小 田 和 宏
歯 科 医	中 田 悟 朗
眼 科 医	加 藤 征 彦

専 門	氏 名
耳 鼻 科 医	伊 澤 秀 身
薬剤師	原 田 晃

生徒数

中 学 校	1 年			2 年			3 年			総 計			百分率 %
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
第 一 中	29	16	45	21	23	44	19	16	35	69	55	124	17.4
佐 志 中	2	4	6	3	4	7	5	9	14	10	17	27	3.8
第 四 中	0	0	0	1	1	2	2	2	4	3	3	6	0.8
第 五 中	8	16	24	14	13	27	6	17	23	28	46	74	10.4
編 中	10	8	18	6	19	25	7	11	18	23	38	61	8.5
鬼 塚 中	16	18	34	9	13	22	7	14	21	32	45	77	10.8
湯 中	2	4	6	3	3	6	1	6	7	6	13	19	2.7
大 良 中	0	0	0	0	3	3	2	1	3	2	4	6	0.8
西 唐 津 中	1	8	9	2	7	9	4	8	12	7	23	30	4.2
浜 玉 中	9	13	22	10	14	24	8	15	23	27	42	69	9.7
編 木 中	0	5	5	0	2	2	0	1	1	0	8	8	1.1
相 加 中	2	6	8	4	9	13	8	9	17	14	24	38	5.3
北 波 多 中	8	2	10	1	2	3	3	6	9	12	10	22	3.1
切 木 中	4	4	8	1	0	1	3	0	3	8	4	12	1.7
肥 前 中	7	2	9	5	0	5	5	2	7	17	4	21	2.9
向 島 中	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0.1
名 護 屋 中	0	2	2	7	1	8	2	3	5	9	6	15	2.1
馬 渡 中	2	1	3	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0.4
加 吉 中	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	2	0.3
打 上 中	1	2	3	6	0	6	2	3	5	9	5	14	2.0
呼 子 中	6	5	11	3	7	10	3	5	8	12	17	29	4.1
小 川 中	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	2	3	0.4
七 山 中	0	1	1	1	2	3	1	1	2	2	4	6	0.8
有 藤 中	0	6	6	2	6	8	2	3	5	4	15	19	2.7
鎮 賀 中	1	2	3	1	1	2	1	6	7	3	9	12	1.7
学 区 外	2	2	4	2	3	5	0	1	1	4	6	10	1.4
県 外	1	1	2	2	1	3	1	0	1	4	2	6	0.8
総 合 計	111	129	240	104	136	240	94	140	234	309	405	714	100

(平成19年5月1日現在)

卒業生の進路（過去5か年間）

卒業年月	項目		卒業 者数	進 学 者						就 職 者	自 営 業	そ の 他	
	学 科 (コース)	性 別		大 学			短 大						専 修 学 校 各 種
				国 立	公 立	私 立	国 立	公 立	私 立				
平成15年 3 月	普通科	男	132	12	0	53	0	0	2	47	10	0	8
		女	146	4	0	20	0	0	35	50	22	1	5
		計	278	16	0	73	0	0	37	106	32	1	13
	普通科 英語コース	男	12	1	1	3	0	0	0	3	3	1	0
		女	28	0	3	11	0	0	2	7	2	0	3
		計	40	1	4	14	0	0	2	10	5	1	3
合計		318	17	4	87	0	0	39	116	37	2	16	
平成16年 3 月	普通科	男	110	10	1	41	0	0	2	40	13	1	2
		女	128	4	1	25	0	1	21	60	10	2	4
		計	238	14	2	66	0	1	23	100	23	3	6
	普通科 英語コース	男	5	0	1	1	0	0	0	2	0	0	1
		女	33	1	0	13	0	0	7	8	1	1	2
		計	38	1	1	14	0	0	7	10	1	1	3
合計		276	15	3	80	0	1	30	110	24	4	9	
平成17年 3 月	普通科	男	119	24	4	48	0	0	1	25	12	1	4
		女	116	3	3	38	0	0	15	42	9	2	4
		計	235	27	7	86	0	0	16	67	21	3	8
	普通科 英語コース	男	7	1	0	4	0	0	0	0	0	0	2
		女	33	1	3	14	0	0	4	7	3	0	1
		計	40	2	3	18	0	0	3	7	3	0	1
合計		275	29	10	104	0	0	20	74	24	3	11	
平成18年 3 月	普通科	男	98	10	3	50	0	0	5	24	5	0	1
		女	97	3	5	37	0	2	24	19	6	0	1
		計	195	13	8	87	0	2	29	43	11	0	2
	普通科 英語コース	男	11	0	1	3	0	0	0	2	3	2	0
		女	28	3	1	9	0	0	5	4	3	0	3
		計	39	3	2	12	0	0	5	6	6	2	3
合計		234	16	10	99	0	2	34	49	17	2	5	
平成19年 3 月	普通科	男	98	17	2	43	0	0	1	18	15	0	2
		女	97	8	2	35	0	1	11	26	12	0	2
		計	195	25	4	78	0	1	12	44	27	0	4
	普通科 英語コース	男	6	0	2	1	0	0	0	3	0	0	0
		女	34	0	2	12	0	0	6	10	2	1	1
		計	40	0	4	13	0	0	6	13	2	1	1
合計		235	25	8	91	0	1	18	57	29	1	5	

(就職進学は各種・専修学校に入れる。)

主な就職先（過去5か年間）

項 目			一 般 企 業		国 家 公 務 員	地 方 公 務 員	自 商 稼
卒業年次	学 科 (コース)	性 別	県 内	県 外			
平成15年	普通科	男	6	2		1	1
		女	19	4			
	普通科 英語コース	男	4				
		女	2				
	合 計		31	6		1	1
平成16年	普通科	男	8	2		3	1
		女	8	3		1	
	普通科 英語コース	男					
		女	3				
	合 計		19	5		4	1
平成17年	普通科	男	7	2		1	4
		女	11	2			
	普通科 英語コース	男					
		女	3	1			
	合 計		21	5		1	4
平成18年	普通科	男	3	2		1	2
		女	6			1	
	普通科 英語コース	男	1			2	1
		女	2	1			
	合 計		12	3		4	3
平成19年	普通科	男	6	2	3	2	2
		女	10		1	1	
	普通科 英語コース	男					
		女	2			1	
	合 計		18	2	4	4	2

主な合格校（延べ数）

大学等名	卒業年次		平 15 年			平 16 年			平 17 年			平 18 年			平 19 年			
	新	旧	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計	
国立 大 学	京 産 工 業 大				1	1	2	2										
	山 崎 工 業 大														1		1	
	横 浜 国 立 大								1	1								
	大 阪 外 国 語 大								1	1	1	1						
	鳥 取 大	1	1								1	1						
	鳥 取 大	1	1												1		1	
	山 口 大	3	3	2	2	2	2	2	2	2					1		1	
	愛 媛 大								1	1								
	香 川 大																	
	九 州 工 業 大											2	2					
	福 岡 教 育 大								1	1					1		1	
	九 州 大			1	1													
	佐 賀 大	9	9	5	5	17	3	20	9	9	16	16						
	長 崎 大			1	1	2	2	1	1	4	1	5						
	大 分 大	1	1	1	1										1		1	
宮 崎 大	1	1	2	2	2	2	2	2	2					1		1		
鹿 児 島 大	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1							
鹿 屋 体 育 大										1	1							
琉 球 大			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
合 計		17	17	15	16	31	3	34	17	17	27	1	28					
公 立 大 学	高 崎 経 済 大			1	1	1	1	1										
	都 留 文 科 大	1	1					2	2									
	兵 庫 県 立 大									1	1							
	熊 本 県 立 大										1	1						
	下 関 市 立 大	1	1	1	1													
	山 口 県 立 大							1	1					2		2		
	広 島 市 立 大							1	1							1	1	
	北 九 州 大	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2						
	福 岡 県 立 大			1	1													
	長 崎 県 立 大	1	1	1	1	1	1	4	4	1	1							
	長 崎 シーボルト大						2	2						1		1		
	宮 崎 県 立 大									1	1							
宮 崎 公 立 大									2	2	2	2						
合 計		6	6	7	7	11	11	11	11	11	8	1	9					
私 立 大 学	専 修 大							1	1									
	法 政 大	1	1					1	1	1	1	2						
	帝 京 大	1	1	1	1			1	1					4		4		
	中 京 大	1	1															
	龍 谷 大							1	1									
	福 山 大																	
	徳 島 文 理 大								1	1	1	1						
	岡 山 理 科 大	1	1								2	2	1	1	2			
	岡 山 理 道 大			5	1	6					1	1						
	広 島 文 教 女 大				1	1			1	1								
	梅 光 学 院 大	1	1												2		2	
近 畿 大			1	1	1	1	1	2	2									
西 南 学 院 大	1	1	2	1	3	4	4	4	1	1	1	1	1					
福 岡 大	12	1	13	18	3	21	33	2	35	21	1	22	38	2	40			
九 州 産 業 大	26	2	28	20		20	31	3	34	36		36	22		22			
久 留 米 大	7	1	8	6	2	8	16		16	19		19	14	2	16			
第 一 産 科 大	2	2	1	1	2	1			1									

大学等名	卒業年次			平 15 年			平 16 年			平 17 年			平 18 年			平 19 年		
	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計
私立 大 学	中 村 学 園 大	3		3	3	3	8		8	5		5	3		3			
	筑 紫 女 学 園 大	3		3	8		8	6		6	11		11	13		13		
	福 岡 女 学 院 大				6		6	1		1					5			5
	九 州 共 立 大	2		2	2		2	4		4	3		3	1		1		
	九 州 国 際 大				5		5	4		4	4		4	1		1		
	福 岡 工 業 大	8	1	9	3		3	5		5	6		6	30	1	31		
	西 日 本 工 業 大				1		1											
	久 留 米 工 業 大				1		1	2		2	5		5					
	西 九 州 大	6		6	5		5	15	1	16	5		5	10		10		
	清 水 女 子 大				1		1	2		2								
	崇 城 大	2		2	6		6	1		1	4		4	1	1	2		
	熊本学 園 大	2	2	4	2		2	2		2	10		10	6		6		
岡 府 大	7		7	1		1	3		3	3		3						
そ の 他	34	1	35	29	10	39	27	1	28	46	1	47	46	2	48			
合 計	130	9	129	127	22	149	170	9	179	186	3	189	188	9	197			
国公立短大	大分県立芸術短大				1		1					1		1				
	新見公立短大													2		2		
	鹿児島県立短大											1		1				
	合 計				1		1			2		2	2		2			
私立 短 大	筑紫女学 院 短大	1		1	3		3		3	4		4	2		2			
	福岡女学 院 短大	3		3	1		1	1		1	2		2					
	福岡女子 短大	1		1	2		2	1		1	2		2	3		3		
	精華女子 短大	3		3	2		2	1		1	2		2	1		1		
	中村学 園 短大	5		5	5		5	4		4	4		4	3		3		
	佐賀 学 院 短大	6		6	5		5	6	1	7	6		6	5		5		
	九州龍谷 短大	1		1				1		1	1		1	1		1		
	佐賀女子 短大	4		4	4		4	2		2	6		6					
	西日本 短大	1		1				3		3	2		2	3		3		
	そ の 他	15		15	14		14	9		9	18		18	9		9		
合 計	40		40	36		36	31	1	32	47		47	27		27			
各種・専修学校	看護・医療系	33	1	34	31		31	32		32	28		28	32		32		
	法律看護学校	7		7	6		6	4	1	5	3		3	5		5		
	福岡歯科衛生専門				1		1				1		1	1		1		
	法律コンピュータ専門																	
	ブライトンカレッジ	3		3	2		2											
	福岡工業専門	2		2				1		1								
	公務員ビジネス専門	3		3	7		7	1		1								
	麻生医療福祉専門	2		2	3		3	6		6								
そ の 他	72	1	73	58	2	60	44		44	23		23	34		34			
合 計	122	2	124	108	2	110	88	1	89	55		55	72		72			

生徒会活動（部活動）

部活動名		部活動生徒数			部活動名		部活動生徒数		
		男	女	計			男	女	計
文 化 部	文 芸	3	13	16	体 育 部	バレーボール	1	20	21
	理 科			0		バスケットボール	29	31	60
	演 劇	4	13	17		卓 球	11	10	21
	吹 奏 楽	4	37	41		剣 道	1		1
	家 庭 研 究		13	13		弓 道	29	31	70
	美 術	15	5	20		陸 上	7	11	18
	書 道		21	21		野 球	43	4	47
	茶 道		15	15		サ ッ カ ー	38	5	43
	華 道		6	6		ソ フ ト ボ ー ル		21	21
	英 語	13	67	80		ソ フ ト テ ニ ス	19	19	38
	写 真	7	4	11		テ ニ ス	11	18	29
	ボラン ティア	JRC部門	1	9		10	バドミントン	27	16
IAC部門			7	7	ボ ー ト	4	13	17	
小 計		47	210	257	ヨ ッ ト	12	7	19	
					小 計	242	206	448	
					総 計	289	416	705	

男女バレーボール部

男女バレーボール部の歴史を正確に記す資料も残っていない。そこで、近年の活動概況を記すことにする。

現在男子バレーボール部は一名で活動を行っている。一名では何も練習ができないため、女子部の練習に時々お世話になっている。この地区に男子バレーボール部のある中学校が少ないこともあり、部員確保が難しい状況であるが、また六人部員がそろって、試合ができる日を信じて練習に励む毎日である。

女子バレーボール部は、ここ数年、チーム存続が危ぶまれるくらいの少人数で活動を続けていた。公式戦において目立った戦績を残すこともできなかった。二年前から、部員が十名以上の数で安定するようになり、二〇〇七年一月時点では十二名で活動を行っている。バレーボールの技術を磨くこと



以上に人間的な成長を目標することを重視して、毎朝校庭付近の掃き掃除をするなどの意識改革を続けていた。また、月に一回のペースで強化合宿を行い、技術向上にも努めている。最近では公式戦でも力を発揮できるようになり、徐々に結果が現れ出しはじめていた。とはいえ、まだまだ成長途上のチームであり、今後の一層の努力が求められる。

男子バスケットボール部



九十周年記念誌を見ると、平成六年頃から平成八年度の三年間、高校総体でベスト8という結果が見られる。平成十二年度からは、毎年ベスト4以上の大会成績を残している。また、団体少年佐賀県選抜選手として、平成十四年度には千々岩利幸（九州産業大学に進学しキャプテンを務める）、平成十五年度には藤野一、平成十六年度には坂本雄一と宮崎雅臣の二名、平成十八年度には井上良介を輩出している。

平成十二年度から平成十八年度までの近況七年度の公式大会成績を紹介すると、以下のような内容である。詳細は、唐津西高校のホームページにある部活動紹介にも掲載されています。

平成12年度 高校総体 第4位

平成13年度 選抜大会 ベスト8

春季大会 ベスト4

平成14年度 高校総体 第3位

【団体少年佐賀県代表選手 千々岩利幸】

選抜大会 ベスト4

新人大大会 第3位

春季大会 ベスト4

平成15年度 高校総体 ベスト8

【団体少年佐賀県代表選手 藤野一】

選抜大会 準優勝

新人大大会 準優勝（九州大会出場）

春季大会 準優勝

平成16年度 高校総体 第3位

【団体少年佐賀県代表選手 坂本雄一、宮崎雅臣】

選抜大会 準優勝

平成17年度 高校総体 第3位

新人大大会 第3位

春季大会 ベスト4

平成18年度 高校総体 第4位

【団体少年佐賀県代表選手 井上良介】

選抜大会 ベスト4

卓球部

本校卓球部の歴史を詳しく調べることは出来なかった。最近十年間の県高校総体の上位成績を記したいと思う。

平成9年度 男子団体戦 第2位

平成10年度 男子団体戦 第2位

・個人戦ダブルス 第2位

伊藤 暢・厚田幸二組

・個人戦シングルス 第2位

厚田幸二

・個人戦シングルス 第3位

中冨俊哉

平成11年度 男子個人戦シングルス 優勝

厚田幸二

平成12年度 男子団体戦 第3位

・個人戦シングルス 優勝

厚田幸二

平成13年度 男子団体戦 第3位

・個人戦シングルス 第3位

河川博文

平成14年度 男子団体戦 第2位

・個人戦ダブルス 第3位

河川博文・榎 幸三組

新人大大会 ベスト4
九州春季選手権 第3位

＊ 個人戦シングルス 優勝

戸川博文

平成15年度 男子団体戦 第3位

平成15年度 男子個人戦ダブルス 第3位

戸川博文、宮崎雄共組

＊ 個人戦シングルス 優勝

戸川博文

高校総体の団体戦優勝は無かったものの、川原貞光先生（現大相模女子校教頭）指導の下で、着実に力をつけた選手たちは、この他の新人戦・学年別・選抜大会でも優秀な成績を多数残している。

女子は部員不足で団体状態のときもあったようだが、今年の県高校総体の団体戦では、決勝リーグにあと一歩届かずベスト8であった。

ここ数年は、男女とも上位成績は残せていないが、戦強との両立を目指し、先輩の成績に迫りつぎ迫り越せの気持ちで日々練習に励んでいる。



剣道部

本校剣道部の開設時期については、残された資料がなく不明であるが、剣道は日本古来の武道であり、本校でも古くから剣道部の活動があったと思われる。戦後の佐賀県では、昭和二十八年に第一回高校総体が開催されており、本校（唐津高校）は講上岩已先生の指導のもと、団体、個人とも優勝を果たしている。

分離開校後の唐津西高としての戦績では、まず昭和四十年年度に中野、山口岡先生のもと、日浦芳江選手が県高校総体個人3位に始まり、中野、藤井尚先生のもとで五十五年年度新人大会女子団体3位、原田孝嗣先生を導いた昭和五十九年度以降はめきめきと力をつけ、六十年年度県高校総体女子団体3位に始まり、六十一年度は県高校総体女子団体3位、玉龜旗高校剣道大会女子ベスト8入賞（敢闘賞受賞）、新人大会女子団体3位、個人女子の酒井美佳選手が2位。さらに、六十二年度は県高校総体女子団体2位、個人女子の酒井美佳選手が3位、全九州高校剣道大会女子団体3位、新人大会も女子団体2位と、本校剣道部の黄金期を迎えた。以後も平成三年度県高校総体、新人大会女子団体3位、平成四年度は男子が団体3位、平成五年度県高校総体、新人大会女子団体3位の結果を残し、肩口の「仁」の刺繍を見れば、誰もが唐津西高の選手であることを理解し、一日置く時代をつくりあげた。

近年、剣道を志す青少年の減少とも相まって、輝

かしい実績を持つ本校剣道部も部員不足に悩まされている。しかし、現在の部員も少人数ながら先輩方が築いた歴史を受け継ぎ、「仁」の心を胸に毎日の稽古に励んでいるところである。

弓道部（女子）

平成十二年度から平成十八年度までの最近七年間の公式大会及び一年生錬成大会の成績を紹介すると、以下のような内容である。

平成12年度 一年生錬成大会 団体3位

平成13年度 高校総体 団体準優勝

【九州高校総体出場】

個人準優勝（山崎裕子）

【全国・九州高校総体出場】

平成14年度 一年生錬成大会 団体ベスト8、個人

4位（青木美樹）

平成15年度 春季大会 団体ベスト8

個人準優勝（二年・青木若樹）



新入大会 第3位

選抜大会 個人優勝(徳岡梨香)〔全
国大会にて決勝進出(ベスト15入り)〕

平成16年度 一年生錬成大会 日チーム・予選2位

平成17年度 春季大会 ベスト4

平成18年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成19年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成20年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成21年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成22年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成23年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成24年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成25年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成26年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成27年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成28年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成29年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成30年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成31年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成32年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成33年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成34年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成35年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成36年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成37年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成38年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成39年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)

平成40年度 春季大会 個人優勝(二年・平山金穂子)



陸上部

西高陸上部の歴史は、詳しい資料が残っていないため、選抜大会まで遡ることは困難である。

佐賀県高体連史から主な成績を調べてみた。

昭和32年 女子総合3位

昭和33年 女子総合3位

昭和34年 女子総合2位

昭和35年 女子総合2位

昭和36年 女子総合2位

昭和37年 女子総合2位

昭和38年 女子総合2位

昭和39年 女子総合2位

昭和40年 女子総合2位

昭和41年 女子総合2位

昭和42年 女子総合2位

昭和43年 女子総合2位

昭和44年 女子総合2位

昭和45年 女子総合2位

昭和46年 女子総合2位

昭和47年 女子総合2位

昭和48年 女子総合2位

昭和49年 女子総合2位

昭和50年 女子総合2位

昭和51年 女子総合2位

昭和52年 女子総合2位

昭和53年 女子総合2位

昭和54年 女子総合2位

昭和55年 女子総合2位



昭和51年 女子100m日・五種1位

昭和53年 男子やり投げ1位

平成10年 高校駅伝男子6位・人賞

選抜も多々あるかと思うが、今回の調査ではここまでしか掲載することができなかった。

現在は十五名の部員で、第一グラウンドや唐津市陸上競技場などで練習に励んでいる。近年目立った成績を残していないので頑張っていきたいと思う。

野球部

学校創立百周年を記念した平成十九年度野球部は、三年生八名、二年生十六名、一年生十五名、マネージャー四名計

四十三名で活動しています。今年の夏の甲子園予選は、残念ながら三回戦で敗退しました。新チームは十月一日現在、公式戦4勝3敗で地区新人戦優勝、秋季九州大会シード権を獲得しましたが、初戦敗退しました。この敗退を



反省して、現在守備を重点的に練習しています。(写真は今年度の夏の大会ベンチ入りメンバーです) 九月十七日五校OB戦後の祝賀会に出席させて頂きました。今年度から、商業・工業・東・麻木で行われていた四校OB戦に、唐津西高校が加入して五校OB戦となりました。

祝賀会には、黒知事古川氏、唐津市長坂井氏が出席され、会は約二五〇名の出席で行われ、各学校OBが壇上で校歌・応援歌を熱唱するなど盛大に終了しました。その際でそして二次会で、西高OBの方々とお話する機会があり、西高野球部は、軟式野球部から硬式野球部へと変わった当時、グラウンドは石だらけで、とにかく弱いチームで甲子園を夢見るような環境ではなかったけれども毎日楽しく活動されていた事をお聞きしました。しかし、そんな中で、先輩から後輩へと伝統は引き継がれ、青丸監督



率いるチームが甲子園出場を果たし、甲子園では元中日ドラゴンズ投手近藤がいた黒知事代表が栄光高校に一番打点封負けを喫しましたが、その近藤投手は翌年、プロ野球で読売巨人軍に対してノーヒット、ノーランを達成し、巨人は唐津西高より高いと話題になったそうです。OBの方々の話をお聞きし、ぜひ母校に立ち寄って頂き、現在の部員にお話しして頂ければと思います。そこで、野崎野球部OB会長とも相談し、毎年十一月にOB戦を行うことになりました。ぜひ、参加して頂ければと思います。最後にになりましたが、まつら同窓会の会員様今後のご健勝と御活躍をお祈りし、今後とも唐津西高野球部に対し、ご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

サッカー部

サッカー部の歴史は浅く、新校舎移転後の創部である。昭和五十六年(一九八一年頃)、坂本春雄氏(唐津ガス)を中心とするサッカーが好きな仲間が、サッカー部を創設したので顧問になつてほしいと担任の江里口忠先生(退職)にお願いしたところ、快く引き受けて頂いた。その後、久我有策先生(故人)、近藤芳樹先生(現伊万里西)、坂本豊厚先生(現伊万里農林)、西田寛先生(現麻木)、矢次康浩先生(現唐津吉野)の精力的なご指導で、年々活気ある部活動となった。現在は、週一と週行正実

が指導にあたっている。

創部当時、西高にはグラウンドが一つしかなくサッカー部の他に野球部、ソフトボール部、陸上部がひしめきあって練習していたが、昭和六十一年に野球部が甲子園に出場したことを契機として新グラウンドの話が持ち上がり、平成元年十一月に第二グラウンドが完成してサッカー部の練習場が移動した。このことにより、広い練習場でのびのびと練習ができるようになった。

卒業生は、大学、社会人でプレーを続けたり、指導者、または審判としてそれぞれの分野で活躍している。また、毎年一月三日にはOB戦が行われ、現役生との交流の機会となっている。

平成十九年にはサッカー部バスを購入し、遠くは広島、鹿児島などに遠征を繰り返し強化をおこなうなど、部の上位進出をめざして練習に励んでいる。今後の双松健児サッカー部の活躍に期待したい。



ソフトボール部

この原稿は二十八年間唐津西高校ソフトボール部の監督をされた樋口輝夫先生の記述を主に参考にさせていただいた。

昭和二十三年四月、唐津高校ソフトボール部として発足。同年の第一回県大会に出場して第2位。練習は昭和二十六年まで今の東高グラウンド、二十七年から西校舎に移す。

輝かしい戦績の一部を紹介したい。

- (一) 県大会優勝年度 昭和24、25、26、28、30、31、32、34、37、40、62、63、平成4、8
- (二) 全国大会出場年度 30、31、32、33、34、37、40
- (三) 国民体育大会出場年度（単独チームとして）31、34、35、37

現在は第2グラウンドでサッカー部と共有しながら毎日、元気に活動している。この六年では県大会



準優勝二回と過去の戦績に比べたら数段劣るが、今後も全国大会目指して頑張りたい。

ソフトテニス部

ソフトテニス部の部部を正確に記す資料は残っていない。そこで、近年の県大会成績などについて記述する。

男子は、平成十五年度新人戦で、中島・小林組が個人でベスト8入り（九州大会出場）を果たしている。また、平成十七年度新人戦では団体第3位となり、また個人でも西元・中山組がベスト8入り（九州大会出場）を果たしている。今年度高校総体でも、団体ベスト8という結果を残している。

女子は、平成十六年度新人戦で団体ベスト8、平成十七年度高校総体で団体ベスト8という結果を残している。

現在ソフトテニス部は、男子十二名、女子十六名で活動している。技術の向上と共に、精神面の成長を重要視しており、文武両方で「知行合一」を実践できるように日々努力している。定期的に練習試合や合宿を行い、公式戦でも力を発揮できるように努めている。今後は、これまで以上の成績を残すことができると、日々の練習を積み重ねて頑張りたい。

テニス部

昭和六十三年四月、テニス同好会として発足。翌年の第二十七回県総



体で男子団体2位となり九州大会出場。また、個人戦シングルスで市丸選手が優勝し全国大会・団体に出場。平成九年四月同好会から男子テニス部、女子テニス部と部へ昇格。輝かしい戦績の一部を紹介したい。

県総体団体戦 準優勝（九州大会出場）男子平成元年・18年、女子平成11年・12年・13年

3位 男子平成19年、女子平成10年
県総体個人戦シングルス 優勝（全国大会出場・団体出場）男子平成元年（市丸選手）、女子平成12年（野中選手）

準優勝（全国大会出場・団体出場）女子平成13年（松本選手）

県総体個人戦ダブルス 準優勝（九州大会出場）

男子平成元年（市丸選手・木村選手）、女子平成12年（野中選手・松本選手）

平成13年（松本選手）

現在も全国大会・九州大会を目指して毎日練習している。今年度位置で開催された青春佐賀総体にも、個人戦シタルスで男子の村山選手が出場した。来年度以降も連続で出場できるように頑張っていきたい。

バドミントン部

平成四年（一九九二年）頃愛好会として活動開始。平成十年（一九九七年）頃部として発足。

部発足前後には、県高校総体で、女子団体が好成績を出している。平成六年、平成九年、平成十年で準優勝、平成五年、平成七年、平成八年、平成十一年で第3位であった。

しばらく成績は低迷していたが、平成十八年度新入大会において、女子団体第3位、男子団体ベスト8、平成十八年度普及向上大会において、男子シタルス準優勝と第3位、平成十九年度春季シタルス大会において、男子ダブルス第3位、平成十九年度高校総体において、女子団体第3位、男子団体ベスト8、男子ダブルスベスト8など、最近盛り返しつつある。

ボート部

ボート部の古い記録はほとんど残っていないので、最近十年間の全国での入賞を中心にここに書かせていただきます。

平成十三年度にインターハイで宮宮車指君がシタルスカルで2位に入賞、これが把握できている中で、唐津西高校ボート部の最高成績のようです。宮宮君は同じ年の宮城団体でも同種目で4位入賞を果たしています。その後宮宮君は、日本体育大学、日本体育大学大学院へ進学し、現在もボート部員として活動を続けています。先日の秋田団体でも成年男子フォアの選手として出場してくれました。

平成十六年度卒業の三浦友之君は、高校時代に全国大会で入賞することはありませんでしたが、仙台大学に進学後も競技を続け、今年イギリスで行われた二十三歳以下の世界選手権に日本代表として選ばれ、出場しました。現役の高校生たちも、身近な先輩が目の丸を背負って世界大会に出場したことを喜ぶと共に、自分の練習の大きな励み



となったようでした。

今年は地元唐津の松浦川で全国高校総体が開催され、顧問の多くも大会の運営役員として忙しい日々を送りました。そんな中で女子ダブルスカルスの前川香澄、福田紗由美の両選手が5位入賞を果たしてくれたことは、唐津の全スタッフの大きな喜びとなりました。またこの大会では卒業生、その保護者の皆様をはじめ多くの関係者の方々にも多大なご協力をいただき、本当にありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

今日も選手たちは松浦川で練習しています。先輩方々多くの方々への感謝の気持ちを忘れることなく、そして、松浦川は昔と変わらず選手を優しく見守ってくれています。

ヨット部

本校ヨット部は一九七六（昭和五十一年）の佐賀国体（若狭国体）に向けた選手強化のため、その一年前の一九七五（昭和五十一年）に発足しました。唐津西高校創立百周年の歴史と比較すると、発足して三十二年のヨット部の歴史は浅いです。しかしながら、草創期から現在まで全国高校総体や国民体育大会をはじめとした多くの競技会で、毎年上位に名を連ねるほどの競技力の向上を実現するに至っています。さらに、近年では海外での国際大会へもほぼ毎年参加することができるようになり、部員の諸君が世界基準の技術・体



力・精神力に加え、「生きる力」を肌で感じる機会が増えたことは、何ものにも代え難い経験であり、その後の人間形成に影響することが大いに見込まれるのではないかと思います。このような

部員諸君の活躍も、ひとえに佐賀県ヨット連盟や同窓会、振興会など多くの方々の御理解や御支援によるものであると感謝しています。誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。

今年を記念すべき唐津西高校創立百周年の年に、佐賀で全国高等学校総合体育大会が開催されます。なかでもヨット競技は地元、唐津で行われます。是非とも、全員で喜びを分かち合えるかたちで競技を終えることができるよう尽力し、また、今年以降も同様により高い目標を実現できるよう努力し、本校のために貢献していきたいと思っております。

生徒会

学校における生徒会行事の企画や運営に尽力してきました。特に、生徒会最大の行事「双松祭」では

夏の暑い中、全校生徒のために奔走してきました。現在、第五十二期の生徒会本部役員が、平成十九年度に創立百周年を迎える記念すべき年に、大成功を収めるべく頑張っています。平成十九年度は、全国総体が佐賀県で開催されるため、例年と違い「双松祭」は四月開催となり、年度をまたぎただしく準備に追われています。

役員として、第四十六期から第五十二期の生徒会本部役員を紹介いたします。

▼第46期

(生徒会長) 井上裕介(副会長) 草場友子(文化委員長) 山口利絵(文化副委員長) 千葉晃子(体育委員長) 浜口慎吾(体育副委員長) 井上瑠(生活委員長) 小宮林裕(生活副委員長) 山本一生(監査委員長) 黒部忠(監査副委員長) 松本愛子

▼第47期

(生徒会長) 井上瑠(副会長) 末廣伸作・上田久美子(文化委員長) 平尾菜菜(文化副委員長) 大崎貴史(体育委員長) 野崎康太(体育副委員長) 中島雅文(生活委員長) 井上嘉美・田島香菜子(監査委員長) 三島史高

▼第48期

(生徒会長) 百田健吾(副会長) 中島雅文(文化委員長) 内藤千晶(文化副委員長) 森藍子(体育委員長) 大崎貴史(体育副委員長) 石橋佑紀(生活委員長) 吉田麻理子・横井信・前田俊貴(監査委員長) 三島史高

▼第49期

(生徒会長) 吉浦和宏(副会長) 石橋佑紀・正木三子美(文化委員長) 菊池修平(文化副委員長) 前田真菜(文化副委員長) 井上志保(体育委員長) 吉田克之(体育副委員長) 宮城京大(生活委員長) 松本幹大(生活副委員長) 横井信(監査委員長) 加茂都昭

▼第50期

(生徒会長) 菊池修平(副会長) 松本幹大・宮城京大(文化委員長) 森万佑子(文化副委員長) 吉田雅(体育委員長) 前田隆輔(体育副委員長) 藤野真季・山口金太郎(生活委員長) 青木友紀・佐々木隆弘(生活副委員長) 前田俊貴

▼第51期

(生徒会長) 森万佑子(副会長) 藤野真季(文化委員長) 前田由佳(文化副委員長) 前田隆輔・前田由真(体育委員長) 長尾貴介(体育副委員長) 田崎愛・坂口朝紀(生活委員長) 吉田雅(生活副委員長) 麻生陽香

▼第52期

(生徒会長) 前田由真(副会長) 麻生陽香(文化委員長) 前田由佳(文化副委員長) 一瀬康平・藤山由子(体育委員長) 坂口朝紀(体育副委員長) 山田信二(生活委員長) 今田智之(生活副委員長) 百藤理(監査委員長) 長嶋建治(監査副委員長) 新温司

SELHiについて

唐津西SELHiの挑戦

SELHiの背景

二十一世紀入り、インターネットの普及・資本の流動化により私たちの生活は地方、身近なレベルにおいても急速に国際化しています。しかしながら急速な国際化がもたらしたものは、いいことばかりではありません。環境問題の悪化、地域・民族紛争の増加と激化など私たちが解決しなければいけない課題も山積しています。そしてその課題は特定の地域や国が抱えるものではなく、多くの国々が協力して解決するためにコミュニケーションの手段として英語の役割は益々重要になりつつあります。

このような世界情勢・国際的な変化の中で平成十五年三月に文部科学省は「英語が使える日本人」の育成のための行動計画を発表しました。この行動計画の目標に「英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を

図る」掲げられ、SELHi（スピーチ・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）事業が始まりました。

唐津西SELHiの取り組み

一方唐津西高校では、平成三年四月に英語コースを設置し、海外語学研修・イングリッシュ・キャンプなどを実施してきました。英語コース創立後十数年を経過して、新しい指導法への挑

戦によって生徒の興味と関心を高め運用力を伸ばすことを目標に平成十八年度より文部科学省より指定を受け、SELHi研究を始めました。そのテーマは「多読プログラムを基本に多様な言語活動を通して、四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）の英語運用力の養成を目指す指導法、カリキュラムの開発」です。研究の柱は三つで、「①多読プログラムを主軸に置いた高校英語プログラム」の開発、「②英語による英語」

の指導法」の研究、「③多読によって得られたインプットを運用力に結びつける効果的な音読活動の開発」です。もう少し詳しく言えば、「英語の授業で日本語を使わずに、たくさん読んで、英語を使えるようになる」ということです。

具体的には、この目標に沿って「指導法講習会」や「公開授業」を開くことができました。指導法講習会には唐津地区の中学校の先生も参加し「今後の参考になった」という声が多かったです。「公開授業」に対しては「唐津西高校の研究の成果を他の県内高校に広げていこう」という応援もありました。

今後の方向性

唐津西高校のSELHi研究指定は、唐津西高校が百一年目を迎える平成二十年年度に最終年度を迎えます。この最終年度のテーマを「Directions Toward Bicentennial」としています。

このSELHi研究が、今後の唐津西高校の発展に多少でも寄与できるように精進・努力していきたいと考えています。



指導法講習会（平成18年7月25日）小曾利也先生（武蔵野大学）



公開授業（平成18年11月14日）中島一彰教師、ニッパ先生

なつかしき母校

唐高女同窓会

松尾 綾

私は唐津高等女学校第二十四回卒業である（昭和八年四月）。思えば遠い日々昔のことである。女学校と聞いただけで胸熱くなる思いである。当時女学校と言えば昔の懐れの的であった。この度、母校の創立百周年を記念にもましてお目出たいことである。

女学校時代私は西ノ門小路と言ったところに住んでいて、学校への通路は有札坂とゆう坂道を通っての朝夕であった。当時は現在のような男女共学ではなく通学路にしても、なるべく男子の中学生と一緒に歩かないようにというきびしいきまりがあった。制服にしてもスカート丈もちゃんときまりがあり、時々服装検査というものがあつていと記憶する。現在の高校生から見れば、おかしく思われるかもしれないが、皆それをきちんと守っていたのである。当時女学校は現在の総合庁舎のところに建っていて、私たちは波の音をききながら、日々勉強していた。

校庭の西側に小高い丘があり記念園と言ふ名稱がありとてもロマンチックな場所であつた。バレー、バスケ、テニス、陸上競技など、とても楽しかった。私は陸上競技をやっていたが、小野原先生という男の先生からきびしく鍛えられたが、でも楽しかった。殊に対外試合が近づくとうす帰くなるまで練習で鍛えられた。今一度走つてみたい。

秋の運動会は楽しかった。中でも先生対生徒のリレーは面白くて、私と志賀先生という男の先生が一緒に走った時、先生がコーナーのところどころで止まられた。私は暗に先生に走りより先生を助けおこして走ったが、見事なスポーツマンシップであるとはめて頂いた思いがある。そのなつかしいことのひとつである。そのなつかしい先生もすでに亡きさやるかたもない。当時の講義先生方の思い出は盡きない。

卒業後は同窓会という大きな団結の中の一員として母校との交流を絶やすことなく楽しく過ごさせて頂いている幸せの中に在る。女学校が現在の西高等学校になり場所も坊主町から新田と言ふ現在の場所に移転されたが私たちの在校時代とは違い男女共学の現在に手をつなぎ合いながらの通学のさまは誠に羨ましい限りである。先年野球部が甲子園出場の際、今はしき石丸会長・村瀬副会長と一緒に同窓会としての援助に走り廻ったこともなつかしい思い出である。

朝夕の通学の彼ら彼女らの姿を見る時昔とは時代の相違を思う時もあるが、年令と時代の相違こそあれ、かつての高等女学校、現唐津西高等学校という同窓の老いと若者が創立百周年を共に迎えるというよろこびは何にもましてうれしいことである。

今後の西高等学校の益々の発展を祈ること大なるものである。



人気シンガー YUI、絢香さん育てる

音楽界が今、注目

西尾さん 音楽界が今、注目

十代の女性シンガーとして、若手の人気を二分するYUIと絢香さん。両者は共に音楽界に大注目を浴び、話題の新人として注目を浴びている。YUIは、絢香さんと同じく、デビューアルバムをリリースし、大々的なプロモーション活動を行っている。YUIは、絢香さんと同じく、デビューアルバムをリリースし、大々的なプロモーション活動を行っている。



YUI（左）と絢香（右）。YUIは、デビューアルバムをリリースし、大々的なプロモーション活動を行っている。絢香は、デビューアルバムをリリースし、大々的なプロモーション活動を行っている。

音楽界に注目を浴びたYUIと、心の母国を愛する人々を応援するYUI。YUIは、デビューアルバムをリリースし、大々的なプロモーション活動を行っている。絢香は、デビューアルバムをリリースし、大々的なプロモーション活動を行っている。



名曲多角分析 独自理論を確立

音楽界に注目を浴びたYUIと、心の母国を愛する人々を応援するYUI。YUIは、デビューアルバムをリリースし、大々的なプロモーション活動を行っている。絢香は、デビューアルバムをリリースし、大々的なプロモーション活動を行っている。

西尾西高第24回（昭和55年3月卒業）西尾芳彦さん、平成18年12月18日 佐賀新聞掲載

競艇・峰選手(唐津)輝く新人賞

口賞 日本スポーツ大賞



新人賞実質を報告し、唐津市長と選手を交わす峰選手（右）一徳津市役所

日本アロスポーツ協会がスポーツ界に貢献した選手や団体に贈る「〇六年度の日本アロスポーツ大賞の新人賞に競艇の競艇太選手（唐津市）が選ばれ、九日、唐津市役所を表彰訪問した。県出身の競艇選手が同賞を受賞するのは初めて。

競艇の新人賞はデビュー翌年から三年以内を対象で、峰選手は〇四年十一月にデビュー。昨年一月から十一月までの獲得賞金が約千百万円、一着回数六十四回を数えるなど、対象約一百人のうち、トップの成績を挙げた。

新人賞が贈られたのは競艇手をはじめ大相撲の相撲部員ら十五組。最高新人賞にはプロ野球で優勝した日本ハムの八木智哉投手が輝いた。太賞は野球のワールド・ベリースポール・クラシック（WBC）日本代表だった。

峰選手は唐津西高卒。〇五年十一月に早くも初優勝を飾り、デビュー九二年で最優秀選手の栄冠に輝く予定などと若手のホープとして期待を集めている。坂井俊之市長に受賞を報告した峰選手は「賞の名に恥じないよう、さらに向上していきたい」と抱負を語った。

（江島）

西尾西高第47回（平成15年3月卒業）峰竜太さん、平成19年1月10日 佐賀新聞掲載

卒業生数一覧

(昭和32年度以降)

	普通科			家政科 女	合計		普通科			普通科英語コース			合計
	男	女	計				男	女	計	男	女	計	
S32	61	236			297	H6	123	135	258	6	39	45	303
S33	76	207			283	H7	124	140	264	11	33	44	308
S34	69	217			286	H8	125	148	273	6	33	39	312
S35	79	223		資料なし	302	H9	131	148	279	3	36	39	318
S36	80	255			335	H10	132	141	273	8	32	40	313
S37	82	257			339	H11	115	159	274	11	29	40	314
S38	66	262			328	H12	107	133	240	4	34	38	278
S39	59	159	218	98	316	H13	123	144	267	5	34	39	306
S40	50	203	253	95	348	H14	148	126	274	7	33	40	314
S41	54	257	311	104	415	H15	132	146	278	12	28	40	318
S42	66	259	325	111	436	H16	110	128	238	5	33	38	276
S43	68	253	321	108	429	H17	119	116	235	7	33	40	275
S44	54	249	303	104	407	H18	98	97	195	11	28	39	234
S45	39	255	294	102	396								
S46	36	251	287	98	385								
S47	49	226	275	92	367								
S48	47	221	268	88	356								
S49	50	206	256	87	343								
S50	68	201	269	89	358								
S51	72	192	264	89	353								
S52	100	201	301	88	389								
S53	132	183	315	85	400								
S54	110	194	304	84	388								
S55	127	189	316	86	402								
S56	109	196	305	87	392								
S57	100	207	307	86	393								
S58	95	215	310	86	396								
S59	93	173	266	86	352								
S60	86	185	271	91	362								
S61	87	176	263	90	353								
S62	98	166	264	86	350								
S63	103	169	272	84	356								
平成元年	98	175	273	92	365								
H2	125	137	262	88	350								
H3	114	153	267	90	357								
H4	116	149	265	90	353								
H5	116	148	264	89	353								

普通課程 2、3年 (30、29年度入学)

学科	教科	1年	2年	3年
国語	国甲	①	①	①
	国乙	②	2	2
社会	社	①		
	日 本 史		①	
数学	算 理	①	①	
	数 理			5
理科	生 物	①		
	物 理		5	5
保健	保 健 体 育	①	①	①
芸術	音 楽	2	2	2
	工 芸			
商業	商 業 英 語	2	2	2~4
家庭	一 般 家 庭 科	①	①	①
	食 物 保 健		5	5

○印は必修科目 ●印は本校にて必修科目

普通課程 1年 (31年度入学)

コース (特色)	共通	B	C ₁	C ₂
国	①	①	①	①
社	①	①	①	①
数	①	①	①	①
理	①	①	①	①
芸	①	①	①	①
商	①	①	①	①
家	①	①	①	①
合 計	32	32	32	32
単 位 数				

■は選択必修科目 ○は女子のみ必修科目

家庭課程 2、3年 (30、29年度入学)

学科	教科	1年	2年	3年
国語	国 甲	①	①	①
社会	社	①		
数学	算 理	①	①	
理科	生 物	①		
保健	保 健 体 育	①	①	①
芸術	音 楽	2		2
商業	商 業 英 語	3	2	2
	一 般 家 庭 科	5	7	9
家庭	食 物 保 健		2	2
	食 物 保 健		2	2
家庭	食 物 保 健		1	3
	食 物 保 健			2
家庭	食 物 保 健	2		
	食 物 保 健	2	2	2
家庭	食 物 保 健	2		
	食 物 保 健			2

家庭課程は選択科目とし

家庭課程 1年 (31年度入学)

学科	教科	1年	2年	3年
国語	国 甲	①	①	①
社会	社	①		
数学	算 理	①	①	
理科	生 物	①		
保健	保 健 体 育	①	①	①
芸術	音 楽		①	
商業	商 業 英 語	3	2	2
	一 般 家 庭 科	5	7	9
家庭	食 物 保 健		2	2
	食 物 保 健		2	2
家庭	食 物 保 健		1	3
	食 物 保 健			2
家庭	食 物 保 健	2		
	食 物 保 健	2	2	2
家庭	食 物 保 健	2		
	食 物 保 健			2

課程別生徒数

課程	年		計
	男	女	
普通	3	62	220
	2	86	212
	1	82	144
	計	230	428
	計		82
家庭	2	80	80
	1	81	81
	計		243
	計		243
	計		243

普通課程 2、3年 (37、36年度入学)

履修方法	教科科目	共通	コ						大		
			I			II			2年	3年	計
			1年	2年	3年	計	2年	3年			
共通	国語甲	4	3	3	10		3	3	10		
	国語乙		乙3	3		7	乙3	3	2		5
	漢文		漢3	2			漢3				
	計	4	6	7	17		6	5	15		
	社会	5									5
	日本史			日5					5		5
	世界史		5		5	5	5	5			5
	人文地理			人5					5		5
	計	5	5	5	15	5	5	10	20		
	数学I	6	3			9	3				9
	数学II		3			3	3				3
	数学III			5		5					
	計	6	6	5	17	6			12		
	理科	5				5					
	物理		物2	5	物3	5	5	物5	5		3
化学		化3		化2	5		化5				
計	5	5	5	15	5		5	10			
保健体育	1	1			2	1				2	
体育	2	2	3		7	2	3			7	
計	3	3	3		9	2	3			9	
外国語	5	5	5	15	5	5	5	15			
計	5	5	5	15	5	5	5	15			
芸術	音楽	音2									
	美術	美2	2			2				2	
	書道	書2									
	計	2				2				2	
	商業一般	商2	男2			男2				男2	
	計	2				2				2	
	家庭一般	家2	女2			女2				女2	
	計	2				2				2	
	小計	32		30	30	92		30	23		85
	選択	音楽		音2	音2			音2	音2		
美術			美2	美2			美2	美2			
書道			書2	書2			書2	書2			
商業一般			商2	2	2	4	商2	2	4	6	
商業経済			経2				経2				
商業簿記				簿2				簿2			
家庭一般			家2	家2			家2	家2			
食生活				食2				食2			
数学							数5	数5			
理科							物5	5	物5	5	5
化学						化5	化5				
小計		2	2	4		2	9		11		
特別教育活動	2	2	2	6	2	2	2	6			
総計	34	34	34	102	34	34	102				

全日制 普通科

教科・科目	学年 入学年度 学年 類型	平成3年度入学 (第1学年)					平成2年度入学 (第2学年)					平成元年度入学 (第3学年)							
		1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計				
		共通	1型	II型	1型	II型	共通	1型	II型	1型	II型	共通	1型	II型	1型	II型			
国語	国語 I	4	6			6	6			6	6			6	6		6		
	国語 II	4		6	5	5-6		6	5	5-6		6	5	5-6		5-6			
	現代文	3				3-3-3				3-3-3					3-3-3				
	古典	4				3-3-3				3-3-3					3-3-3				
社会	現代社会	4	4			4	4			4	4			4	4		4		
	日本史	4		3	3	4	4	0-7	3	3	4	4	0-7	3	3	4	4	0-7	
	世界史	4		3-3-3	3-4-4	4-7	3-3-3	3-4-4	4-7	3-3-3	3-4-4	4-7	3-3-3	3-4-4	4-7	3-3-3	3-4-4	4-7	
	地理	4		3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	3-4-4	0-7	
数学	数学 I	4	6			6	6			6	6			6	6		6		
	数学 II	3				0				0				0			0		
	代数幾何	3		2	3	3	3-5		2	3	3	3-5		3	3	3			
	基礎解析	3		3	3	3	3		3	3	3		3	4	3		3-4		
	微分積分	3				4	0-4					4	0-4				4	0-4	
	確率統計	3				3	0-3				3	0-3					3	0-3	
理科	理科 I	4	4			4	4			4	4			4	4		4		
	化学	4		3-3-3	3-4-4	3-7	3-3-3	3-4-4	3-7	3-3-3	3-4-4	3-7	3-3-3	3-4-4	3-7	3-3-3	3-7		
	生物	4		3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	3-7		
	地学	4		3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	4-4-4	0-7	3-3-3	3-7		
保健	体育 7-11	男42	男42	男42	3	3	男42	男42	男42	3	3	男42	男42	男42	3	3	男42		
	保健	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1		
外国語	英・美・書 I	2	2			2	2			2	2			2	2		2		
	英・美・書 II	2		2	2	2		2	2	2		2	2	2		2			
	英語 I	4	6			6	6			6	6			6	6		6		
	英語 II	5		3	3	3	3	6	3	3	3	3	6	4	3	3	3	6-7	
家庭	英語 II B	3			4	4	4			4	4	4			2	4	2-4		
	英語 II C	3		3	3	3			3	3	3			3	3	3			
	家庭一般	4	女2	女2	女2	女4	女2	女2	女2	女4	女2	女2	女2	女4	女2	女2	女4		
小計		33	33	33	31	33	97-98	33	33	33	31	33	97-98	33	33	33	31	33	97-98
選	国語表現	2				2		0-2			2		0-2				0		
	基礎解析	3				2-2		0-2		2-2		0-2					0		
	英・美・書 I	2				2		0-2		2		0-2					0		
	英・美・書 II	2				0		0		0		0			2		0-2		
	簿記会計 I	3-7				0		0		0		0		2-2			0-2		
	食物	6-12				0		0		0		0		2			0-2		
英語 II B	3				0		0		0		0		2			0-2			
普通教科小計		33	33	33	31	33	97-98	33	33	33	31	33	97-98	33	33	33	31	33	97-98
ホームルーム		1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3
クラブ活動		1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	3
総計		35	35	35	35	105	35	35	35	35	35	105	35	35	35	35	35	105	
備考		3年次の社会・理科は、2年次より継続履修とする。					3年次の社会・理科は、2年次より継続履修とする。					3年次II型の微分積分は、日本史・世界史・地理のうち1科目と代替履修可能							

全日制 普通科、普通科英語コース

教科	科目	標準単位	平成6年度入学 (第1学年)		平成5年度入学 (第2学年)			平成4年度入学 (第3学年)			単位数計		
			普通	英語	1型	2型	英語	1型	2型	英語			
国語	国語 I	4	5	5							5		
	国語 II	4									0.2		
	国語表現	2						①			0.2		
	現代文	4			2	2	2	3	2	3	4.5		
	現代語	2									0		
	古典 I	3			3	2	3				2.3		
地理・歴史	古典 II	3						②			0.2		
	世界史 A	2									0		
	世界史 B	4			3	3	4	3	3	2	6.8		
	日本史 A	2							2		0.2		
	日本史 B	4						3	②	2	4	0.4, 5.7	
	地理 A	2			2			3	3*	2	4	0.2	
公民	地理 B	4			2			3	②	4	0.4, 5.7		
	現代社会	4	4	4							4		
	倫理	2									0		
	政治・経済	2									0		
	数学 I	4	5	4							4.5		
	数学	数学 II	3			2	4	2	3		2	4.5	
数学 III		3							4		0.4		
数学 A		2			2	2	2	②		2	0.2, 1		
数学 B		2							2		0.2		
数学 C		2									0		
理科		基礎理科	4									0	
	物理 I A	2	2								0.2		
	物理 I B	4				3			3		0.6		
	物理 II	2									0		
	化学 I A	2	2								0.2		
	化学 I B	4			3	3	2	3	②	3	3*	2	5.6, 8
		2				3*			3*			0	
	生物学 I A	2									0		
	生物学 I B	4			3	3	3	3	②	3		0.5, 6.8	
		2										0	
	地学 I A	2									0		
	地学 I B	4										0	
2											0		
保健	体育	9	3	3	3	3	3	3	②	3	3	9.11	
	保健	2	1	1	1	1	1					2	
	音楽	2										2	
芸術	音楽 I	2	2(選択)	2(選択)								2	
	音楽 II	2			2(選択)	2(選択)	2(選択)					2	
	音楽 III	2							①			0.2	
外国語	英語 I	4	5	5							5		
	英語 II	4			4	3	3	2	2	2	3.6		
	オーストラリア英語 I	2			2	2	2				2		
	オーストラリア英語 II	2						2			0.2		
	オーストラリア英語 III	2							①		0		
	リーディング	4						4	4	4	4		
家庭	ライティング	4						2	①	2	0.4		
	家庭一般	4	2	2	2	2	2				4		
その他	体育	2							①		0.2		
普通教科小計			31	31	31	31	31	31	31	31	31	103	
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
	クラブ活動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
総計			33	33	33	33	33	33	33	33	33	99	

〔注〕「①」「②」はそれぞれ選択2、4単位を表し、「③」、「④」より4単位を選択する。



一 妃の宮の御威徳を 長み仰ぐ鏡山

虹の松原 澄む月は くもらぬ操 教ふらん

二 榮ある歴史うるはしの 自然の愛に抱かれて

皇御國の輝ける 女とならん我が願ひ

三 智識の泉底深し 母徳の花の枝高し

倦まず進まむ我が友よ 理想の道は遠かなり

四 朝に希望夕べには 満ちたる感謝ささげつつ

学びいそしむ乙女子の 行く手に永遠の光あれ

唐津高等女学校 校歌



○組織

実行委員会



○記念事業

- ・体育館ステージ観戦一式の更新
- ・記念誌の発行
- ・校歌のCD作成
- ・校舎・校地の航空写真撮影

○業務分担

委員長：校長 副委員長：同僚会長、振興会長、教頭、事務長

項目	同僚会	振興会	教頭/事務長	主任(職員)	係(職員)
総務	黒村(会長)	井手(会長) 吉本(顧問)	松本(教頭) 森本(事務長)	山下 (教務主任)	大島、野上、原、手塚、村谷、船本、金丸、藤田、野口、倉光、平田
記念式典	太田(副会長)	藤生(副会長)	松本(教頭)	副島 (生徒指導主任)	中村 _◎ 、井上、瀬戸、西野、松水、藤原、佐野、吉田、古川、高嶋、月光
祝賀会	丸鬼(副会長)	岡部(副会長)	松本(教頭)	滝邊 (同僚会事務局長)	高橋、清江、中村 _◎ 、福富、池田、泉茂、鶴田、宮川、森、宇村、園上
記念誌	坂本(副会長)	渡邊江 (副会長)	松本(教頭)	松野 (3年担任)	久田、田中 _◎ 、田中 _◎ 、下田、高平、山口、出本、田代
記念事業	吉藤(監査)	林(副会長)	森本(事務長)	熊谷 (3学年主任)	本山、吉藤、内山、中森、黒田、高田、黒本、中村 _◎
財務	中島(監査)	中川、坂本 山道(監査)	森本(事務長)	古賀俊 (事務主任)	増本、栗田